

### (1) CS（視聴者満足）向上の取り組み

2005年度より、NHKでは本部および全国の放送局で「CS（視聴者満足）向上活動」に取り組んでいる。この活動は、視聴者のみなさまの要望や意見をきちんと受けとめ、それをもとにして、各現場が主体的に放送番組や業務の改革・改善を進め、視聴者サービスのより一層の向上を図ることが目的である。

「CS向上委員会」は会長を委員長とし、すべての部局にCS向上委員会を設けて、全局的な活動を推進している。「視聴者の声」を“経営資源”として、意向を的確に把握し、適切かつ迅速に業務に反映することに取り組んでいる。視聴者から届いた主な意見・意向や、各部局・放送局が実施した「改善」や「業務改革」の取り組みについては、視聴者事業局サービス開発部が、毎月1回とりまとめて、「放送局のちから」活動報告として理事会に報告している。

10年度、本部および全国各放送局の「改善」の取り組み件数は1,081件。番組や編成、事業運営における具体的な「改善」事例は、代表的なものをNHKの公開ホームページ「みなさまの声にお応えします」(<http://www.nhk.or.jp/css/>)や年1回・視聴者事業局が発行する「NHK視聴者ふれあい報告書2011」などで、視聴者に向けて報告した。

### (2) 事業活動

公共放送NHKだからこそできる多彩な公開番組やイベントを全国各地で展開し、人と人、人と社会を結ぶ“公共の広場”、“ふれあいの場”を創出することで、視聴者との結び付きの強化を図った。また、イベント参加者へのアンケートでは、イベントの満足度は全国平均で80%を超える高位の数値を得るとともに、アンケートの結果を踏まえ新たなイベントの企画に生かすPDCAサイクルを推進した。

「大河ドラマ」や『NHKスペシャル』と連動して「龍馬伝展」「地球最古の恐竜展」などのNHKならではの展覧会を開催したり、「ドガ展」「マネとモダンパリ展」などでは海外の貴重な美術作品を広く紹介した。また、世界一流のオーケストラと指揮者を招聘し「NHK音楽祭2010」を開催するなど、国内外の優れた芸術や文化を紹介する事業に努め、“ホンモノの魅力”に触れる機会を積極的に創出した。

「福祉」「環境」「食料」「防災」などの社会的な課題を視聴者に訴えるキャンペーンを全局的な

取り組みで推進したほか、未来を担う若い世代を対象としたイベントサービスや若い世代とともに創るイベントを積極的に推進した。

こうした活動を通して、1,450万人を超える視聴者との交流を深めた。

### (3) 積極的な情報公開の推進と個人情報の適切な取り扱い

視聴者への説明責任を果たすために、積極的な情報公開に努めた。09年度決算ではテレビ5波を10ジャンルに分け、各ジャンル別の番組制作費の総額（トータルコスト）を公表し、10年度予算発表時には10ジャンルの編成比率と番組制作費の総額を公表した。また、放送事業全体についての視聴者からの疑問に答えるため、「よくある質問集」をホームページ上に掲げ情報提供を行うとともに、随時この充実を図っている。そのほか、事業や財務に関して、59の文書を各放送局の窓口等に備え置き、ホームページ上にも掲載している。（表1）

また、個人情報保護法の趣旨を踏まえ、NHKとして、保有する視聴者の個人情報の適切な取り扱いに努めた。

### (4) 広報活動

3か年経営計画の2年目にあたり、接触者率と受信料支払率の向上という2つの経営目標を達成するための取り組みをはじめ、NHKに関するさまざまな情報を発信し、多彩な広報活動を展開した。

「大河ドラマ」や『連続テレビ小説』、『紅白歌合戦』をはじめとする放送番組のPRに全力を尽くし、NHKの番組に対する視聴者の高い支持・評価につなげることができた。

### (5) 営業活動

10年度の営業活動は、単身世帯等の面接困難世帯の増加等や、経済状況の低迷等の影響により、引き続き厳しい状況にある中、放送受信契約の維持・増加と受信料の確実な収納に全力で取り組んだ。

10年度は訪問集金廃止後の新たな体制の定着を図り、契約・未収対策等にさらに重点的に取り組むとともに、外部委託の強化・促進、公的移転情報を活用した移動把握などにより、より効率的・効果的な契約収納活動を展開した。

また、受信料未払い者に対し最後の方法として、民事手続きによる支払督促の申立てを06年11月に行って以来、10年度末までに全都道府県で計1,591件の申立てを行った。その後も支払いに応

じなかった5件について、5月に初めて強制執行の申立てを行い、10年度末までに29件の申立てを行った。未契約者に対する民事手続きについて、4月に未契約の事業所1件を、受信契約の締結と受信料の支払いを求め、千葉地裁松戸支部に提訴したが、契約に応じたため、訴えを取り下げた。

契約総数は、年度内に45.8万件（有料）増加し、

10年度末の有料契約と無料契約を合わせた契約総数は3,975万件となった。

衛星契約については、設置確認メッセージの活用や契約案内メッセージの運用開始、ケーブルテレビ事業者や電器店等と連携した活動の展開等により、年度内に87.5万件（有料）増加し、10年度末の有料契約と無料契約を合わせた衛星契約数

表1 公表の取り組み

公表している情報	公表方法			
	文書の備え置き	インターネットホームページ	放送	官報・新聞等への掲載
経営委員会議事録	○	○		
理事会議事録	○	○		
平成21年度～23年度NHK経営計画	○	○		
番組審議会の議事概要・答申（中央・地方・国際）	○	○	○	
番組基準（国内・国際）	○	○	○	
業務報告書および監査委員会の意見書	○	○	○ニュース等	
財務諸表、監査委員会の意見書、監査報告書	○	○	○ニュース等	○
決算（単体）に関する説明資料	○	○		
連結財務諸表、監査報告書	○	○		
連結決算に関する説明資料	○	○		
日本放送協会定款	○	○		
収支予算、事業計画及び資金計画	○	○	○ニュース等	○
収支予算、事業計画及び資金計画に関する説明資料	○	○		
経理規程	○	○		
役職員の服務準則	○	○		
役職員の報酬・給与等の支給基準	○	○		
国会でのNHK予算審議のまよう			○特別番組	
NHK新放送ガイドライン	○	○		
放送番組編集の基本計画・放送番組編成計画（国内・国際）	○	○編成計画は概要	○新年度番組紹介	
各地方向け地域放送番組編集計画	○	○		
インターネットサービス基本計画	○	○		
NHKの情報公開のあり方に関する提言	○	○		
NHK情報公開基準・NHK情報公開規程	○	○		
NHK個人情報保護方針・NHK個人情報保護規程	○	○		
情報公開の実施状況・個人情報開示等の求めへの対応状況		○		
放送受信規約・放送受信料免除基準	○	○		○
業務委託基準・業務委託契約要領	○	○		
番組制作委託取引に関する自主基準	○	○		
関連団体運営基準	○	○		
関連団体の業務運営状況調査の結果	○	○		
関連団体事業活動審査委員会の活動結果	○	○		
NHKと関連団体との取引	○	○		
関連団体事業活動審査委員会規程	○	○		
子会社・関連会社の役員一覧	○	○		
環境報告書	○	○		

公表している情報	公表方法			
	文書の備え置き	インターネットホームページ	放送	官報・新聞等への掲載
NHKことしの仕事	○	○日本語・英語		
デジタル時代のNHK懇談会報告書	○	○		
NHK“約束”評価報告書	○	○		
視聴者視点によるNHK評価平成21年度報告書	○	○		
NHK第2次コンプライアンス委員会最終答申	○	○		
NHK視聴者サービス報告書	○	○		
視聴者対応報告		○		
視聴者の意見・要望の業務への反映事例		○		
お客さまの声・週刊トピックス		○		
NHKふれあいミーティング		○		
「NHK倫理・行動憲章」[行動指針]	○	○		
「芸能番組制作費不正支出問題」等に関する調査と適正化の取り組みについて	○	○		
日本放送協会報	○			
放送番組表		○		
放送制度等に関するNHK意見		○		
世論調査結果、調査研究成果		○概要	○ニュース等	
会長・放送総局長会見要旨・資料		○		
報道発表資料		○		
随意契約の適正化		○		
NHK年鑑	○	○		
放送受信契約数統計要覧	○			
月刊「放送研究と調査」	○			
放送技術研究所「研究年報」	○	○		
隔月刊「NHK技研R&D」	○			

は、1,567万件となった。

口座振替等については、年度内に72.1万件増加し、10年度末の利用件数は3,527万件となり、利用率は、94.5%となった。

## 視聴者との対話

### 1. 視聴者との結びつき強化

#### (1) CS（視聴者満足）向上に向けた取り組み

09年度、全国のNHKに寄せられた視聴者からの意見や問い合わせは、合わせて465万件だった。08年度に比べておよそ4万件増加した。このうち番組への反響は、全国で135万件を超えた。

「すべては視聴者のみなさまのために」を貫き経営方針の組織風土改革を成し遂げるために、視聴者からの問い合わせに迅速・丁寧に応えるとともに、意見・要望を経営資源としてきちんと受け止め、番組制作や事業活動に反映していかなければならない。

視聴者から信頼され、役に立てるNHKであり続けるためには、多様な要望に迅速に応え、満足してもらうことが重要であり、この活動の繰り返し“CS（視聴者満足）向上”に向けての取り組みである。

#### (2) ふれあいセンター（放送）の取り組み

ふれあいセンター（放送）では、関係各部署と連携して、迅速、丁寧な対応を目指している。寄せられた視聴者の意見、要望はデータベース化し、経営や現場に速やかにフィードバックして番組編成や制作、業務運営に役立てている。

10年度にふれあいセンターで受け付けた視聴者からの意見・要望は、電話が99万9,327件、メールが16万3,139件で合計116万2,466件であった。電話については、外部応答率（着信した電話のうち応答できた割合）は61.6%となった。一方、問い合わせメールの2日以内の返信率は86.0%であり、目標値を2.0ポイント上回った。

ふれあいセンターでは、コミュニケーター等による応対品質やスキルの向上を目指し、さまざま

な研修を実施しているが、10年度は、外部専門業者の協力のもと、実際の対応をモニタリングし、指導・助言を含めてフィードバックする個別研修に加え、「VOISシステム」「2波に伴うデータ放送」「新年度番組編成」など、第一線の現場担当者が講師を務める職場研修を実施した。

## 2. 視聴者意向の収集と活用

### (1) 「NHKふれあいミーティング」の開催

NHKの役職員と視聴者が直接触れ合い、NHKを身近に感じてもらいながら意見交換を行う「ふれあいミーティング」は05年にスタートした。全国各地で実施する公開番組収録の会場や番組の上映会、イベントの実施会場、会館見学と連動するなど、あらゆる機会をとらえてさまざまな形式で開催した。「ふれあいミーティング」は、視聴者との結び付き強化の中心的施策として、本部および全国各放送局で取り組み、10年度は、1,541回開催し、参加人数は、過去最高の5万6,227人となった。

05年のスタート以来、10年度3月末までの累計では、全国で通算1万1,400回を開催、参加人数は29万6,422人となった。10年度は、視聴者とながる回路の1つとして、経営2目標（「接触者率の向上」、「受信料の支払率向上」）の達成に向けた意見・要望を聞く“ふれあいミーティング”を実施した。中でも、経営2目標の達成に資する声を聞くことをねらいにした“提案型ふれあいミーティング”は、参加者の年代が若年層に広がり、これまであまり聞けなかった世代の声が集まった。その提案型ふれあいミーティングは、全国で31回開催・3,011人が参加した。

### (2) 「NHKハートプラザ」の活動

本部・全国各放送局・支局には、視聴者に開かれたNHKを目指して、番組や受信料などNHKに関する意見や問い合わせに直接担当者が対応する窓口として「NHKハートプラザ」を設置し、その機能強化を図っている。また、「ハートプラザ」は、経営計画や予算・決算書などを取りそろえ、NHKの情報公開の窓口としても機能している。さらに、「ハートプラザ」は、地域の文化拠点となることを目指して、ロビー展示やさまざまなイベントも開催している。10年度は、各放送局を巡回するハートプラザ用のミニ展示「ダーウィンが来た！」や「ななみちゃんと挑戦！地デジ探検隊」「巡回パネル展」などを活用し、全国の放送局のハートプラザ来場者は、合わせて247万2,199人を数えた。会場には、幼い子どもを連れ

た家族が目立ち、若い世代との結び付きにつながっている。本部の「ハートプラザ」（放送センター4階・正面玄関横）は、6人のNHKサービスセンター職員・スタッフが、来局者や手紙（投書）およびFAXの意向把握・集約、情報公開窓口を担当している。1日平均で、29人が窓口を訪れ、手紙（投書）が54通、FAXが53件寄せられている。また、グループ単位による事前申し込みを原則に、中学生・高校生による“企業訪問学習”を積極的に受け入れている。視聴者が放送会館を訪れて、NHKと直接ふれあう接点として、気軽に足を運ぶことができる場となっている。

### (3) 10年度視聴者意向

#### ①意向の件数と内容

電話、メール、手紙、FAX、来局、ふれあいミーティングなどで、全国の放送局に寄せられた10年度の意向件数は458万件になった。

#### 10年度視聴者意向件数（単位 千件）

（※関連団体への意向件数は含まず）

#### ※内容別内訳

区分	経営関係	放送関係	受信料関係	技術関係	受信相談	その他	合計
件数	12	1,608	2,226	19	236	476	4,576
%	0.3%	35.1%	48.6%	0.4%	5.2%	10.4%	100.0%

#### ※受付方法別内訳

区分	電話	投書	来局	ファックス	インターネット	集金時等	ふれあいミーティング	合計
件数	3,899	122	56	24	369	97	9	4,576
%	85.2%	2.7%	1.2%	0.5%	8.1%	2.1%	0.2%	100.0%

番組別では、『あさイチ』が5万8,600件で最も多く、次いで『NHKおはよう日本』に4万8,150件、『ためしてガッテン』に4万6,500件、『ニュースウオッチ9』に2万9,500件、『NHK歌謡コンサート』に2万3,000件、『ラジオ深夜便』に2万2,600件、『NHKスペシャル』に2万2,300件、『NHKニュース7』に2万200件、『NHKのど自慢』に1万8,700件の意見・問い合わせが寄せられた。なお、『2010 FIFAワールドカップ』には、1万200件の意見・問い合わせが寄せられた。個別番組で最も多かったのは、『NHK紅白歌合戦』で、2万4,900件だった。

#### ②意向の集約・周知

視聴者部では、ふれあいセンター（放送）や全国の各放送局に寄せられた意見・問い合わせなどを集約して、概要のほか、主な番組への意見、受付形態別の件数などを掲載し1日の視聴者の声の傾向をまとめた「日報」を発行している。

また、1週間ごとの傾向をまとめた「週刊視聴者の声」では、反響が多かった番組への主な意見内容、再放送を希望する理由の分類などを掲載し、番組編成に役立てているほか、個別番組について詳細な分析を行い番組制作の参考に供している。1か月ごとの傾向をまとめた「月刊視聴者の声」は、番組審議会の資料としても利用されている。「日報」「週刊視聴者の声」「月刊視聴者の声」は「VOISシステム」に登録し、全職員が閲覧できるようにしている。

また、08年度4月の放送法改正で、視聴者からの苦情や要望を含めたすべての意見に迅速かつ適切に対応し、その対応結果を経営委員会に報告することが義務づけられたことに伴い、ふれあいセンターや本部各部署、全国の放送局に寄せられた意見・苦情などをとりまとめて、毎月、「視聴者対応報告」を作成、理事会で審議決定し経営委員会に報告した。「視聴者対応報告」は、ホームページに掲載し視聴者も閲覧できるようにした。

### ③寄せられた視聴者の意見と業務への反映

視聴者から寄せられた意見・要望や、業務の改善事例などをまとめた「みなさまの声にお応えして～NHK視聴者ふれあい報告書2011」を、全国の放送局の協力を得て作成し、6月に発行した。「NHKオンライン」上でも公開した。

## 3. NHKネットクラブ

NHKネットクラブは、インターネット会員サービスとして「視聴者との双方向の回路の充実」「受信料支払者の受益感の向上」「インターネット自主取次の拡大による営業経費の圧縮」を目的に、09年10月27日にスタートした。

10年度は、インターネット会員サービス「NHKネットクラブ」は、さまざまなジャンルの番組との連動を拡大するなど会員サービスの充実に努めたほか、『おかあさんといっしょ』（スタジオ収録）の参加応募をNHKネットクラブのプレミアム会員限定としたことなどにより、年間で約53万人の会員増があり、年度末の会員数は約107万人となった。

# イベント事業

## I. 公開番組

### (1) 地域で実施する全国放送公開番組

10年度は、559本の公開番組を全国各地で実施。総合テレビ72本、教育テレビ13本、衛星放送74本、

ラジオ・FM300本の公開番組を地方自治体などの協力を得ながら実施したのに加え、NHK大阪ホールで30本、地域放送局スタジオで70本を実施した。

### (2) NHK内、都内外施設で実施する公開番組

NHKホール、ふれあいホール、505スタジオなどのNHK施設、およびニッショーホールなど都内外施設で公開番組を実施した。

#### 【定時番組】

NHKホールで公開した定時テレビ番組は、『NHK歌謡コンサート』（34本）9万7,643人、『MUSIC JAPAN』（12本）4万2,242人、『ザ少年倶楽部』（9本）2万6,344人。

ふれあいホールで公開した定時テレビ番組は、『渋谷らいぶステージ』（16本）3,452人、『お好み寄席』（16本）3,873人、『最新ヒット ウエンズデー J-POP』（35本）8,506人、『金曜バラエティー』（45本）8,204人、『爆笑オンエアバトル』（16本）3,325人、『BSななみDEどーも!』（21本）4,523人。定時ラジオ・FM番組は『セッション2010-2011』（33本）7,867人、『新・話の泉』（4本）1,025人、『ライブビート』（11本）2,038人。

放送センター505スタジオで公開したラジオ・FM番組は『真打ち競演』（8本）193人。

#### 【主な特集番組】

『熱中スタジアム 特撮ソングナイト』

4月17日 ふれあいホール 401人。

『萌える！泣ける！燃える！ゼロ年代 珠玉のアニメソングスペシャル』

7月6日 ふれあいホール 394人。

『吉永小百合 平和への絆コンサート』

7月9日 NHKホール 2,720人。

『J-POP永遠の80's』

7月15日 NHKホール 2,729人。

『NHK東西浪曲大会』

7月23日 ニッショーホール 583人。

『NHK講談大会』

7月24日 ニッショーホール 566人。

『思い出のメロディー』

8月7日 NHKホール 2,553人。

『ふるさと民謡夏列島』

8月7日 ふれあいホール 241人。

『NHKスペシャル「MEGAQUAKE 巨大地震」上映会』

8月28日・29日 ふれあいホール 266人。

『叙情歌大全集2010』

9月24日 NHKホール 2,731人。

- 『となりの子育て・秋スペシャル』  
9月26日 ふれあいホール 178人。
- 『名医にQスペシャル2010』  
10月2日 ふれあいホール 204人。
- 『平成22年度 NHK新人演芸大賞』  
10月16日 ふれあいホール 430人。
- 『J-MELO 冬フェス2010』  
11月27日 ふれあいホール 173人。
- 『新春民謡列島2011』  
12月25日 ふれあいホール 250人。
- 『NHK紅白歌合戦』  
12月31日 NHKホール 2,667人。
- 『大集合！青春のフォークソング』  
1月13日 NHKホール 2,996人。
- 『みんなの吹奏楽2011』  
1月30日 NHKホール 2,643人。
- 『J-MELO』  
1月27日・28日 ふれあいホール 310人。
- 『家族で選ぶにっぽんの歌』  
3月3日 NHKホール 2,754人。
- 『平成22年NHKのご自慢チャンピオン大会』  
3月5日 NHKホール 2,792人。

## II. 公共放送ならではの イベント・キャンペーン

### 1. NHKハートプロジェクト

すべての人がともに生きる社会を目指し、NHKの福祉番組やイベントを取りまとめた福祉キャンペーン「NHKハートプロジェクト」を05年度から展開し、公共放送だからこそ可能な福祉への取り組みを総合的にアピールしている。

#### (1) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

12月1日（水）から25日（土）まで中央共同募金会（歳末たすけあい）、日本赤十字社（海外たすけあい）、NHK厚生文化事業団とともに実施した。義援金の受け付けは、全国のNHK各放送局、郵便局、取り扱い標示のある金融機関、JA、JF（漁協）、共同募金会、日本赤十字社など。

歳末たすけあいの義援金は、6万6,956件、7億2,845万779円で、各都道府県共同募金会を通じて国内の援助を必要とする人々に配分される。海外たすけあいの義援金は、7万6,425件、6億8,697万8,015円で、日本赤十字社を通じて世界各地の紛争や自然災害などに苦しむ人々のために使われる。また、たすけあいのPRイベントとして、

11月21日（日）に東京のベルサール秋葉原で「あなたのやさしさを2010」を実施した。

#### (2) 災害たすけあい

国内外で発生した非常災害に応じて日本赤十字社などと連携し5件の災害たすけあいを実施した。

国内の災害では①「平成22年広島県大雨災害義援金」（10年7月21日～8月31日）②「山口県平成22年7月大雨災害義援金」（10年7月22日～8月20日）③「東日本大震災義援金」（11年3月14日～）を実施。

海外の災害では①「チリ大地震救援金」（10年3月2日～4月30日）②「パキスタン洪水災害救援金」（10年8月4日～9月17日）を実施した。

#### (3) 第15回NHKハート展

障害のある人が日常生活の中で感じたことをつづった「詩」と、各界で活躍中のアーティスト・著名人がその詩のイメージを、ハートをモチーフに表現した「アート」を組み合わせた展覧会で、94年から開催している。第15回は6,128編の詩の応募があった。展覧会は全国14会場で実施。入場者数は7万5,963人。

#### (4) NHKハート・フォーラム

福祉番組の公開放送やさまざまなテーマのフォーラムを以下の8つのジャンルに分けて全国で57回実施した。総入場者数33万166人。

主催：開催地のNHK放送局、NHK厚生文化事業団、開催地の自治体ほか。

- ①「NHK福祉ネットワーク・公開すこやか長寿」（教育テレビの公開番組）  
10回実施 入場者数2,981人
- ②「鎌田實 いのちの対話」（ラジオ第1の公開番組）  
4回実施 入場者数2,691人
- ③「高齢者福祉」  
2回実施 入場者数644人
- ④「認知症」  
17回実施 入場者数1万618人
- ⑤「ボランティア」  
1回実施 入場者数328人
- ⑥「障害者福祉」  
7回実施 入場者数2,771人
- ⑦「発達障害」  
11回実施 入場者数3,879人
- ⑧「新しい福祉」  
5回実施 入場者数30万6,254人

#### (5) NHKハート・スポーツ・フェスタ

障害のある人もない人もスポーツを通して交流

を深めることで、心のバリアフリーを目指し、01年から実施している。

10年は富山市ほか全国3か所で車椅子バスケットボールなどの競技を実施し、3,486人の参加があった。

主催：NHK、NHK厚生文化事業団

共催：財団法人日本障害者スポーツ協会

## (6) NHK介護百人一首

毎年、介護に関わる人々が日々の生活の中で詠んだ短歌を全国から公募し、珠玉の百首を「NHK介護百人一首」として選定している。10年度は過去最高となる8,332首もの短歌が幅広い世代から寄せられた。

・教育テレビの『福祉ネットワーク』で「介護百人一首」の公開収録をNHKふれあいホールで実施。190人が参加。

- ・百首を取めた冊子を発行
- ・介護百人一首パネル展を各局ロビー等で開催

## (7) 第45回NHK障害福祉賞

障害のある人自身の体験記録や障害児・者の教育・福祉の実践記録を募集し優秀作品を表彰した。10年度は409編の応募があった。

## (8) NHK銀の零文芸賞2010

「高齢社会をどう生きるか」をテーマにした文芸作品を募集し優秀作品を表彰した。08年度からNHKが主催に加わりNHK厚生文化事業団とともに実施。応募数は912編。

## (9) 第44回NHK福祉大相撲

人気力士と歌手の歌くらべや横綱土俵入り、幕内取り組みなどを楽しんでもらうイベントを11年2月11日に国技館で予定していたが、一部力士による無気力相撲いわゆる「八百長」疑惑の浮上により中止した。

## 2. 公共放送キャンペーン

### (1) ふるさとの食 にっぽんの食

01年度より「日本の食文化の伝承」「地産地消」「食育」をテーマに全国で展開しているキャンペーン「ふるさとの食 にっぽんの食」。JAやJF（漁協）などと実行委員会を組織し、全国的に推進している。

#### ①「ふるさとの食 にっぽんの食」全国フェスティバル

※「東日本大震災」の影響により中止。

#### ②「ふるさとの食 にっぽんの食」地域フェスティバル

全国53会場で開催し、99万4,130人の参加があった。

### ③こども農業・漁業体験教室

全国で51校、6,413人が参加した。全国の各放送局が放送やホームページ、イベントなどで活動を紹介した。

#### ④ぼくたちわたしたち農業・漁業体験隊！「絵てがみコンテスト」

「こども農業・漁業体験教室」参加者を中心に農漁業体験の絵てがみを募集し、優秀作品を表彰。応募作品1,207点。

#### ⑤ぼくたちわたしたち農業・漁業体験隊！「アイデア料理コンテスト」

子どもたちが苦労して育て、収穫した食材を使ったもの、「こんな料理食べてみたい！作って欲しい！」というアイデア料理を募集し、アイデア料理賞を表彰。応募作品191点。

### ⑥食料フォーラム

大阪府（9月）、東京都（2月）の2会場で開催。1,151人の参加があった。

## (2) NHK環境キャンペーン 地球エコイベント

21世紀の人類共通の課題ともいえる環境をテーマに「NHK環境キャンペーン 地球エコイベント」を全国で展開。

### ①全国・東京イベント

・SAVE THE FUTURE 2010～いきもの宝島～  
10月10日（日）、11日（月・祝）の2日間をわたって、地球エコイベント「SAVE THE FUTURE 2010～いきもの宝島～」を渋谷のNHK放送センターで実施。

10月に名古屋市で開催された国際会議（COP10）に合わせ、「生物多様性」をテーマとした展示やステージショーを行い、放送では名古屋のCOP10会場と中継を結んだ。また環境問題に取り組む大学生やNPOなどの各団体の活動発表やワークショップなどを実施。

・緑のカーテン

6月1日～11月15日の期間に、NHK敷地内で琉球朝顔などの植生による「緑のカーテン」を設置し、環境を守るライフスタイルを提案。

### ②地域イベント

6月5日の「環境の日」や、10月に名古屋市で開催された国際会議（COP10）に合わせた重点期間を設定し、集中的にイベントや放送を展開した。年間を通じて57本の地域イベントを開催し47万9,862人が参加した。

## (3) NHK防災キャンペーン

公共放送の使命として、「いざという時のNHK」という意識の浸透を図るとともに、視聴者の防災

意識を高めるため、07年度からスタートしたキャンペーン。

### ①防災パーク2010

9月1日の「防災の日」に合わせて、NHK放送センターで、8月28日～29日に開催。阪神・淡路大震災の3D映像の上映会や、緊急地震速報などNHKの災害報道の紹介、消防・警察の特殊車両の展示や乗車体験、防災ワークショップなどを実施した。来場者数は1万4,333人。

### ②地域企画イベント

全国10会場で開催し、9,935人の参加があった。

## Ⅲ. こども・青少年イベント

### (1) 「天才てれびくんMAXスペシャル」

小学校中・高学年を中心に支持を得ている番組の公開イベントを7月31日にNHKホールで実施。

入場者：2回公演 5,196人

### (2) 「NHKこどもミュージカル」

NHKホールとNHK大阪ホールで、小学生とその保護者を対象にミュージカル公演を実施した。出演は劇団四季「こころの劇場」、演目は「嵐の中の子どもたち」。(企画・演出：浅利慶太)

入場者：東京：10月3日 2回公演 5,656人

大阪：11月21日 1回公演 1,134人

### (3) おかあさんといっしょファミリーコンサート

#### ①東京公演

春：5月1～4日，秋：10月31～11月3日，NHKホールで実施。チャリティー金は社会福祉向上に役立てた。

主催：NHK，NHKサービスセンター，NHKプロモーション，NHK厚生文化事業団

出演：横山だいすけ，三谷たくみ，小林よしひさ，いとうまゆ ほか。

入場者：(春・8公演) 2万5,658人

(秋・8公演) 2万4,665人

#### ②地方公演

全国11会場(28公演)で実施。チャリティー金は社会福祉向上に役立てた。

入場者：4万4,930人

### (4) いないいないばあっ！あつまれ！ワンワンわんだーらんど

『いないいないばあっ！』の人気キャラクター・ワンワンをはじめ，多彩なゲストが歌や踊りを繰り広げる番組連動型のステージショーを，全国10会場(20公演)で実施。チャリティー金は社会福祉向上に役立てた。

入場者：2万6,889人

### (5) おかあさんといっしょ宅配便「モノランモノラン小劇場」

『おかあさんといっしょ』のキャラクターが全国を巡回するミニステージショーを59会場118公演で実施。入場者：5万6,288人

### (6) 「おかあさんといっしょ あつまれ！土曜日」スタジオ収録

『おかあさんといっしょ』の土曜日放送分のみで，子どもが参加する部分の収録を実施。全国の子どもたちに番組出演の機会を提供し，視聴者サービスの充実を図る。8局(一部，外部施設を利用)で収録し，24本を制作。

参加者：557組1,122人(幼児とその保護者)

出演：小林よしひさ，いとうまゆ

### (7) NHK放送体験クラブ

小学校5・6年生を対象に全国各放送局で番組づくりの体験を通し，楽しみながら放送のことを学習するイベントとして実施。10年度は，全国54放送局と6支局および移動スタジオ1会場で実施。

参加した児童の様子や制作した作品は地域放送で紹介し視聴者サービスに努めた。

参加校：898校

参加者数：5万1,863人(通算で64万人)

### (8) 「第77回NHK全国学校音楽コンクール」

都府県(北海道は地区)，ブロックの各コンクールを経て選ばれた小学校・中学校・高等学校の代表各11校(組)が，10月9日・10日・11日にNHKホールで行った全国コンクールに出場した。課題曲のテーマは「いのち」。金賞校：目黒区立油面小学校(2年連続2回目)，郡山市立郡山第二中学校(3年連続3回目)，福島県立安積黎明高等学校(4年ぶり15回目)。

全参加校数：小学校の部918校，中学校の部1,226校，高等学校の部422校，計2,566校。

### (9) 第27回NHK杯全国中学校放送コンテスト

各都府県(北海道は地区)大会は5～7月に実施，全国大会決勝は8月20日，千代田放送会館で実施した。部門は，アナウンス・朗読・ラジオ番組・テレビ番組の4部門。参加校は全国で603校。各部門の参加数はアナウンス814人，朗読1,440人，ラジオ番組101作品，テレビ番組128作品。

### (10) 第57回NHK杯全国高校放送コンテスト

5～6月に各都道府県大会，7月22～24日にNHKホールなどで全国大会を実施した。部門は，アナウンス・朗読・ラジオドキュメント・テレビドキュメント・創作ラジオドラマ・創作テレビドラマの6部門。参加校は全国で1,602校。参加生



徒数は延べ1万5,288人。

### (11) アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2010

全国の高等専門学校57校（62キャンパス）から124チームが参加、競技課題に従い、自らのアイデアを駆使して想像力と技術力を競った。8地区からの選抜25チームが11月21日の全国大会（会場：国技館）に出場。地区大会からの延べ参加者数は1万4,460人。

### (12) NHK大学ロボコン2010

#### ～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～

事前審査を通過した国内20大学のチームが6月6日の大会（会場：国立オリンピック記念青少年総合センター）に出場。参加者数は1,223人。優勝したチームが9月21日にエジプト・カイロで開催されたABUアジア・太平洋ロボットコンテストに出場した。

### (13) NHKアニメ館～「バクマン。」ウィンターライブ

教育テレビで放送中の人気アニメ『バクマン。』の声優および劇中歌の歌手によるトークと歌のステージを1月15日にふれあいホールで開催、若い世代との接触を図った。参加者数：507人

### (14) 渋谷DEどーも2010

「みんなで広げようデジタルの輪」をコンセプトに、ファミリー層をメインターゲットとした内容のイベントを5月1日～4日に放送センター内で展開。参加者数：9万1,045人

## IV. 教育・教養イベント

### (1) NHK文化祭2010

イベント名称を「NHK教育フェア」から「NHK文化祭」へと改称。10月20日～11月7日、NHK放送センターを中心として開催。教育番組の国際コンクール「日本賞」を核に、「食料・東京フェスティバル」とも連動。公開イベント「NHK文化祭たいけん広場」（10月31日～11月3日）では、3D上映、教育テレビ番組のステージイベント、最新デジタルコンテンツの体験型展示などを実施。公開イベント総入場者数は5万4,956人

### (2) 放送教育関連イベント

#### ①第61回放送教育研究会全国大会（東京大会）

視聴覚教育総合全国大会との合同大会として東京で開催。教員が参加しやすい夏に実施。NHK

の学校放送番組やデジタル教材を活用した実践事例の発表や研究協議により、デジタル時代にふさわしい放送利用のあり方を紹介した。

期日：8月9日・10日

会場：東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者数：1,264人

#### ②放送教育研究会地方大会

各地方放送教育研究会などと共催し、全国8ブロックで地方大会を開催した。

参加者数：総計 3,023人（表1）

#### ③先生のためのデジタルテレビ・ICT活用講座

学校放送番組やデジタル教材の活用を支援するために全国10会場で開催。実践教師による「モデル授業」と、メディア教育研究者の指導による実践交流で構成した内容。

参加者数：466人

### (3) 平成22年度「NHK全国短歌・俳句大会」

1月22日（短歌）、23日（俳句）、NHKホールで実施。NHK学園共催。

応募数：短歌4万69首、俳句8万5,573句。

ホール参加者数：短歌1,764人。俳句2,307人。

### (4) NHK公開セミナー

大河ドラマ『龍馬伝』、『スペシャルドラマ～坂の上の雲』、『きれいの魔法』を題材に、NHK文化センター、地方自治体等と共催、全国18会場で実施した。

参加者数：5,733人

### (5) 子育て世代向けイベント「しゃべって納得！となりの子育てin○○」

30～40代の接触者率の向上を目指し、小学生の保護者を対象としたイベントを全国6会場で開催。教育テレビ『となりの子育て』の番組司会者と、教育専門家、ゲスト出演者により、子育ての悩みや秘けつを会場の参加者とともに考える内容で実施。

出演：高野優（育児まんが家）、佐藤弘道（2会場のみ）、教育専門家

参加者数：1,168人

### (6) 学校へ出向き実施するイベント

小・中学生を対象とし、学校へ出向いてNHKとの接触の機会を作り、NHKへの理解を深めてもらう。

#### ①NHKこども音楽クラブ～N響が○○小学校（中学校）にやってきた～

NHK交響楽団のメンバーが小・中学校に出向いて児童・生徒との交流を交えながらトークと演奏を行う子ども向けのクラシックイベント。10年

度は全国の小・中学校8校で開催。クラシックの名曲をはじめ映画音楽や童謡など、親しみやすい曲を演奏。参加者数3,374人。

### ②ヒミツのちからんどin〇〇小学校

小学校高学年向けの番組『ヒミツのちからんど』の公開収録と連動したイベント展開を小学校へ出向いて実施。児童・保護者・教師と近隣住民に学校放送番組や地上デジタル放送を紹介した。全国3会場（小学校）で実施。参加者数：799人

### ③NHK朗読ひろばin〇〇小学校

NHKアナウンサーが小学校に出向く朗読イベント。アナウンサーが教科書や絵本から作品を朗読し、映像や音による演出を加えたステージを展開した。全国10会場で実施。参加者数：1,783人

## V. 美術・展博イベント

### (1) 「マネとモダン・パリ展」

オルセー美術館および国内外の美術館の協力のもと、マネ芸術の全貌を当時のパリが変貌していく様子と結びつけながら約160点で紹介。

主催：三菱一号館美術館，読売新聞社，NHK，NHKプロモーション。有料。三菱一号館美術館。会期：10年4月6日～7月25日。入場者数：30万4,206人。

### (2) 特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」（東京展）

旧熊本藩主細川家に伝来する貴重な美術品や歴史資料と近代日本を代表するコレクター細川護立が蒐集した名品約350点を展示。

主催：東京国立博物館，永青文庫，NHK，NHKプロモーション，朝日新聞社。有料。東京国立博物館。会期：10年4月20日～6月6日。入場者数：18万2,470人。

### (3) NHK大河ドラマ特別展「龍馬伝」

全国各地に伝わる坂本龍馬の遺品や書簡類，幕末の騒乱を伝える歴史資料など約250点を展示。

主催：開催地美術館・博物館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社 ほか。有料。全国4会場（東京，京都，高知，長崎）。会期：10年4月27日～11月3日。入場者数：28万9,844人。

### (4) 「地球最古の恐竜展」

アルゼンチン・イスチグアラスト自然公園で発掘された，地球最古の恐竜「フレンジリサウルス」をはじめ，三疊紀の恐竜や古代の生物たちの全貌を約23種80件で日本初公開。

主催：開催地会場，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社 ほか。有料。全国4会場（東京，大阪，松山，札幌）。会期：10年7月10日～11年8月28日。入場者数：42万5,330人（東京，大阪）。

### (5) 「アントワープ王立美術館コレクション展」

ベルギー近代美術の3大巨匠マグリット，デルヴォー，アンソールをはじめとする印象主義，象徴主義，表現主義の作品から約70点を展示。

主催：開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社 ほか。有料。全国4会場（茨城，広島，島根，東京）。会期：10年2月6日～10月3日。入場者数：7万2,262人。

### (6) 「アール・ヌーヴォーのポスター芸術展」

クリムト，シーレ，ロートレック，ミュシャの作品を中心にチェコ国立プラハ工芸美術館，チェコ国立モラヴィア・ギャラリーが所蔵するポスター約100点を展示。

主催：開催地美術館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社 ほか。有料。全国3会場（京都，東京，名古屋）。会期：10年2月27日～12月26日。入場者数：10万3,296人。

### (7) 「帰ってきた江戸絵画 ニューオリンズギター・コレクション展」

ギター・イエレン財団が40年かけて収集し

表1 2010年度「放送教育研究会地方大会」

ブロック	タイトル	日程	開催地	全体会場	参加者数
北海道	第62回北海道放送教育研究大会道東・十勝茅室大会	11/28(日)・29(月)	北海道茅室町	茅室町公民館	267人
東北	第52回放送教育研究会東北大会岩手大会	10/15(金)	岩手県盛岡市	盛岡市民文化ホール	560人
関東甲信越	平成22年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会 神奈川・横浜大会	11/5(金)	神奈川県横浜市	横浜市都筑公会堂	550人
東海・北陸	第42回愛知県放送教育特別研究会 第48回東海北陸地方放送教育研究大会	8/20(金)	愛知県名古屋	ウィルあいち	220人
近畿	第59回近畿放送教育研究大会 第60回近畿学校視聴覚教育研究大会(和歌山大会)	11/19(金)	和歌山県和歌山市	和歌山県民文化会館	227人
中国	中国地方放送教育夏期特別研究交流大会	8/19(木)	山口県岩国市	周東バストラールホール	203人
四国	第46回放送教育研究会四国大会(香川大会)	11/11(木)	香川県坂出市	坂出市立東部小学校	678人
九州	第59回九州地方放送教育研究大会 鹿児島大会	11/12(金)	鹿児島県鹿児島市	かごしま県民交流センター	318人
				7会場計	3,023人

た、禅画、文人画、浮世絵などの江戸絵画を中心とした日本美術約100点を展示。

主催：開催地美術館・博物館，開催地NHK放送局，NHK地域関連会社 ほか。有料。全国5会場（名古屋，千葉，静岡，福島，京都）。会期：10年9月11日～11年10月16日。入場者数：5万9,434人（名古屋，千葉，静岡）。

#### 〔8〕「ドガ展」

パリ・オルセー美術館の作品を中心に踊り子の画家と呼ばれるドガの油彩，パステル，版画，彫刻など約125点を展示。

主催：横浜美術館，読売新聞社，NHK，NHKプロモーション。有料。横浜美術館。会期：10年9月18日～12月31日。入場者数：35万2,317人。

#### 〔9〕生誕100年特別展「白洲正子 神と仏，自然への祈り」

日本の伝統美を探求し，日本各地を巡った白洲正子が旅先で出会った神や仏，そして自然を著作と絡めて約100点で展示。

主催：開催地美術館，開催地NHK放送局（松山展のみ共催），NHK地域関連会社（除く松山展），「白洲正子」愛媛展実行委員会（松山展のみ）。有料。全国3会場（滋賀，松山，東京）。会期：10年10月19日～11年5月8日。入場者数：3万7,887人（滋賀，松山）。

#### 〔10〕NHK大河ドラマ特別展「江～姫たちの戦国～」〔東京展〕

江および江を取り巻く歴史上の人物の遺品や書簡，戦国動乱期を伝える歴史資料など約230点を展示。

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館，NHK，NHKプロモーション。有料。江戸東京博物館。会期：11年1月2日～2月20日。入場者数：9万5,891人。

#### 〔11〕特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」

平山郁夫が生涯をかけて取り組んだ文化財保護に関わる活動を仏教伝来の道に沿って紹介。文化財に加え，平山郁夫の画業の集大成である「大唐西域壁画」など約70点を展示。

主催：東京国立博物館，NHK，NHKプロモーション，朝日新聞社。有料。東京国立博物館。会期：11年1月18日～3月6日。入場者数：18万8,402人。

#### 〔12〕「第57回日本伝統工芸展」

優れた日本の伝統工芸を現代に継承しつつ，今日の生活に即した新しいものを築き上げることを目的に毎年開催。

主催：社団法人日本工芸会，開催地NHK放送局，朝日新聞社，文化庁（東京展のみ），開催地教育委員会など。一部有料。全国12会場（東京，名古屋，京都，金沢，仙台，岡山，松江，高松，広島，福岡，松山，大阪）。会期：10年9月22日～11年3月15日。入場者数：26万310人。

#### 〔13〕「第12回 国際バラとガーデニングショウ」

メインテーマを「バラにつつまれる贅沢を」としてバラを惜しみなく使ったローズアベニューなどを展開。サブテーマは「花が主役の庭」として，4人のガーデナーによる珠玉の庭を再現。

主催：国際バラとガーデニングショウ組織委員会（毎日新聞社，NHK，スポーツニッポン新聞社）。有料。西武ドーム。会期：10年5月12日～17日。入場者数：21万1,259人。

#### 〔14〕「東京国際キルトフェスティバル 布と針と糸の祭典2011」

「日本キルト大賞」をはじめとする優秀作品459点をはじめ，誰もが参加できるパートナーシップキルト，特集企画として「至宝 アーミッシュキルトの世界」など展示。

主催：東京国際キルトフェスティバル実行委員会（NHK，読売新聞社，東京国際キルトフェスティバル組織委員会）。有料。東京ドーム。会期：11年1月21日～29日。入場者数：24万9,845人。

#### 〔15〕「世界らん展日本大賞2011」

「らんを楽しむ，らんで楽しむ。」をテーマに，世界20の国と地域から約3,000種，約10万株のさまざまなジャンルの蘭を展示するとともに，その美を競うコンテスト。

主催：世界らん展日本大賞実行委員会（読売新聞社，NHK，世界らん展組織委員会）。有料。東京ドーム。会期：11年2月19日～27日。入場者数：19万7,279人。

## VI. 音楽・伝統芸能イベント

### 〔1〕NHK音楽祭2010

8年目を迎えた「NHK音楽祭」。10年は「偉なるドイツ三大B パッハ，ベートーベン，ブラームス」をテーマに実施。以下，すべてNHKホール。有料公演。

①10月24日（日）ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス

指揮：ニコラウス・アーノンクール，ソプラノ：ドロテア・レシュマン，メゾ・ソプラノ：エリー

ザベト・フォン・マグヌス，アルト：ベルナルダ・フィンク，テノール：ミヒャエル・シャーデ，バス：フロリアン・ベッシュ，合唱：アルノルト・シェーンベルク合唱団。入場者数：3,091人。

②11月6日（土）NHK交響楽団

指揮：アンドレ・プレヴィン。入場者数：3,082人。

③11月10日（水）イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団

指揮：ズービン・メータ。入場者数：3,205人。

④11月25日（木）ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ，バイオリン：ジャーヌ・ヤンセン。入場者数：2,911人。

**（2）NHK古典芸能鑑賞会**

10月28日，NHKホール。有料公演。

①箏曲「三番叟」

山勢松韻，萩岡松韻，山登松和，藤舎呂船ほか。

②舞踊 常磐津・長唄掛合「奴道成寺」

花柳寿輔，常磐津初勢太夫，常磐津文字蔵，今藤長一郎，杵屋栄八郎，堅田喜久三ほか。

③歌舞伎「源平布引滝 実盛物語」

片岡仁左衛門，市川左團次，片岡千之助，片岡孝太郎，片岡秀太郎ほか。

入場者数：1,631人。

**（3）NHK交響楽団演奏会地方公演**

9公演。8月18日京都市，8月19日奈良市，8月20日神戸市，8月21日和歌山市。指揮：モーシェ・アツモン，バイオリン：ホアン・モンラ。

11月7日大阪市。指揮：アンドレ・プレヴィン。2月22日佐世保市，2月23日熊本市，2月24日大分市，2月26日宮崎市。指揮：ジョナサン・ノット，バイオリン：アリーナ・ポゴストキーナ。

総入場者数：1万2,909人。

**（4）第79回日本音楽コンクール**

毎日新聞社と共催。各部門予選・本選を経て入賞者を決定。本選会は10月23～28日，東京オペラシティコンサートホールで開催。各部門の第1位は次のとおり。バイオリン部門：山根一仁（横浜市立豊田中3年），ピアノ部門：吉田友昭（ローマ・聖チェチーリア音楽院2年），フルート部門：竹山愛（東京芸大大学院），作曲部門：三宅悠太（東京芸大大学院），声楽部門：朴瑛実（東京芸大大学院），オーボエ部門：近藤那々子（独・カールスルーエ音大）。

**（5）第54回NHKニューイヤーオペラコンサート**

1月3日，NHKホール。有料公演。

ソプラノ：白木あい，大村博美，木下美穂子，幸田浩子，砂川涼子，高橋薫子，林正子，松田奈緒美，メゾ・ソプラノ：小山由美，林美智子，森山京子，テノール：佐野成宏，樋口達哉，福井敬，水口聡，望月哲也，バリトン：黒田博，堀内康雄，宮本益光，バス：妻屋秀和，合唱：二期会合唱団，藤原歌劇団合唱部，新国立劇場合唱団，バレエ：東京シティ・バレエ団，管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団，指揮：広上淳一，ピアノ：アリス・紗良・オット。入場者数：2,852人。

**（6）第25回NHK能楽鑑賞会**

2月3日，横浜能楽堂。無料公開。

①狂言「鶏聳」～大藏流

山本東次郎，山本凜太郎，山本泰太郎，山本則孝，山本則俊，山本則重，山本則秀，若松隆

②能「安宅 勸進帳 延年之舞 貝立貝付」～観世流 観世清和，観世三郎太，山階彌右衛門，上田公威，清水義也，角幸二郎，林宗一郎，木月宣行，関根知孝，浅見重好，坂口貴信，宝生閑，山本東次郎，山本則俊，一噌庸二，大倉源次郎，亀井忠雄，木月孚行，武田尚浩，藤波重彦，角寛次郎，岡久広，観世芳伸，津田和忠，藤波重孝，野村昌司，武田友志，坂井音雅。入場者数：330人。

**（7）東京JAZZ2010**

9月3～5日，東京国際フォーラム。有料公演。出演：レ・フレール，クリスチャン・スコット&熊谷和徳，クリス・ミン・ドーキ&ザ・ノーマッツ，マーカス・ミラーwith NHK交響楽団，ラリー・カールトン&松本孝弘，TOKU&塩谷哲，ロバータ・フラック，寺久保エレナ，綾戸智恵，ハン・ベニングほか。入場者数：1万4,467人。

**Ⅶ. スポーツイベント**

**（1）ラジオ体操・みんなの体操会**

かんぽ生命保険，全国ラジオ体操連盟との共催。

①夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会

7月20日～8月31日，全国42会場で実施し，ラジオ第1で生放送。参加者は7万403人。

②特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会

5月30日，6月13日・20日，9月5日・26日，10月3日・10日・17日，全国8会場で実施し，ラジオ第1で生放送した。参加者は1万4,031人。

③その他の普及活動

夏期・特別巡回ラジオ体操の会場のうち5会場および要請のあった自治体や老人ホームなどに講師を派遣し講習会を実施した。

## (2) 2010NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 (第32回大会)

日本スケート連盟主催，NHK共催により10月22～24日，日本ガイシアリーナ（名古屋市）で実施。男子シングルは高橋大輔（日本），女子シングルはカロリナ・コストナー（イタリア）が優勝。参加選手は16か国・62人。総入場者数9,254人。

関連イベントとして，名古屋放送局横の会場・オアシス21では，10月9日にN響メンバーとゲストによる演奏とトーク「サウンドオアシス2010～銀盤を飾る名曲たち～」を実施。また同会場では10月9日～15日の期間「パネル展示『銀盤の世界』」を実施。

## (3) 天皇盃 第16回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催，中国新聞，NHKの共催で11年1月23日に実施。平和記念公園前をスタート・フィニッシュとする7区間48kmコース。栃木県チームが初優勝。広島平和記念公園に設置した大型ハイビジョンで中継映像を公開。広島放送局では「駅伝ふるさとひろば」を2日間実施（来場者数3万3,690人）。

## (4) 皇后盃 第29回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

日本陸上競技連盟の主催，京都新聞，NHKの共催で11年1月16日に実施。京都市西京極総合運動公園陸上競技場をスタート・フィニッシュとする9区間日本陸連公認マラソンコース。京都府チームが2年ぶり14回目の優勝。競技場に設置した大型ハイビジョンで中継映像を公開。ほかに朝ドラ・出演者によるトークショーや少女ミニ駅伝を実施。

## (5) 第66回びわ湖毎日マラソン大会

日本陸上競技連盟，毎日新聞社，滋賀県，滋賀県教育委員会，大津市，大津市教育委員会の主催，NHKの共催で11年3月6日に実施。皇子山陸上競技場をスタート・フィニッシュとする日本陸連公認コース。8月に韓国で開催される第13回世界陸上競技選手権大会の日本代表選考レースに位置づけられ注目を集めた。ウィルソン・キブサング（ケニア）が大会新記録で優勝。日本人トップは堀端宏行（3位）。競技場に設置した大型ハイビジョンで中継映像を公開したほか，「びわ湖環境ふれあいテント村」を実施した。

## (6) 第12回長野オリンピック記念長野マラソン大会

日本オリンピック委員会，日本陸上競技連盟，長野県，長野市，信濃毎日新聞社ほかの主催，N

HKの共催で，4月18日に実施。長野運動公園をスタート，長野オリンピックスタジアムをフィニッシュとする日本陸連公認コース。参加選手は7,831人。総合男子優勝はニコラス・チェリモ（ケニア），総合女子優勝はリサ・ウエイトマン（オーストラリア）。フィニッシュ会場に「NHK長野放送局ファミリーステーション」を展開し，家族そろって楽しめるイベントを開催した。

## (7) オープンゴルフ選手権競技

日本ゴルフ協会の主催，NHKの共催で，男子・女子・シニアの3大会を実施。会場に設置した大型ハイビジョンで中継映像を公開。

### ①第75回日本オープンゴルフ選手権競技

10月14日（木）～17日（日），愛知カンツリー倶楽部（愛知県）で実施。キム・キョンテ（韓国）が優勝。総入場者数は3万94人。

### ②第43回日本女子オープンゴルフ選手権競技

9月30日（木）～10月3日（日），大利根カントリークラブ東コース（茨城県）で実施。宮里美香（日本）が優勝。総入場者数2万8,195人。

### ③第20回日本シニアオープンゴルフ選手権競技

10月28日（木）～31日（日），鳴尾ゴルフ倶楽部（兵庫県）で実施。倉本昌弘（日本）が優勝。総入場者数5,218人。

## (8) 第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会

日本サッカー協会，日本プロサッカーリーグの主催，NHKおよび共同通信社の共催で実施。都道府県代表47チームとシード41チーム（J1-18，J2-18，JFL4，大学1）の88チームで10年9月3日～11年1月1日で行われ。元日，国立競技場での決勝戦（入場者数4万1,348人）では，鹿島アントラーズが3大会ぶり4回目の優勝。大会を通じての総入場者数は34万7,361人。

## (9) 各都道府県サッカー選手権大会

45都道府県大会を各都道府県サッカー協会が主催し，NHKは主催または共催で実施。5,823チームが出場。各都道府県優勝チームは天皇杯の各都道府県代表として出場。

## (10) 第47回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 および 第48回日本ラグビーフットボール選手権大会

大学選手権，日本選手権ともに，日本ラグビーフットボール協会が主催，NHKが共催で実施。

大学選手権は10年12月19日（日）～11年1月9日（日）で実施。決勝戦は国立競技場で行われ，帝京大学が2年連続2回目の優勝。総入場者数は14万8,421人。

日本選手権は11年2月6日（日）～27日（日）

で実施。決勝戦は秩父宮ラグビー場で行われ、サントリーサンゴリアスが9年ぶり4回目の優勝。総入場者数は7万954人。

### (11) JAPAN CUP 2010 チアリーディング日本選手権大会

日本チアリーディング協会の主催、NHKの共催で、8月27～29日、国立代々木競技場・第1体育館で実施。186チーム2,812人が参加。〔中学校部門〕梅花中学校（大阪府）〔高等学校部門〕梅花高等学校（大阪府）〔大学部門〕梅花女子大学（大阪府）〔社会人部門〕クラブチームツイスターズA（東京都）が優勝。総入場者数2万4,340人。

### (12) NHKスポーツパーク

NHK解説者や一流の講師によるスポーツ教室とトークショー等を組み合わせた家族で楽しめる総合的なスポーツイベント。「松岡修造のテニスパーク」を全国2会場で、「バスケットボールパーク」を1会場で実施。参加者は合計3,713人。

### (13) NHKジュニアスポーツ教室

野球、サッカー、バレーボール、水泳、バスケットボール、陸上、ビーチサッカーの各競技種目を一流講師の指導で、全国16会場で実施。参加者は合計2,366人。

## Ⅷ. 会館公開・展示

### 1. NHKスタジオパーク

前身は1965年開設の「見学者コース」。85年に「NHK展示プラザ」と名称変更し、その後、95年3月22日、放送開始70周年を記念して「NHKスタジオパーク」と改称しリニューアルオープンした。00年3月には「放送75周年事業」の一環として、より参加感のある新コーナーを設置。さらに、12月にはBSデジタル放送開局に合わせて「BSデジタルタウン」を設置、03年12月には、地上デジタル放送の開始に合わせて「BSデジタルタウン」を拡充し、「デジタル放送ひろば」とした。

04年12月には「パークギャラリー」「スタジオショップ」を全面リニューアル、07年1月には新コーナー「デザインランド」を新設した。07年6月に総入場者数1,000万人を達成し、これを契機に年5回の「視聴者感謝デー（無料公開日）」を08年1月から設定している。10年度は、東日本大震災の影響で、3月12日から31日まで臨時休館とした。10年度の入場者は66万1,863人。

入場料は、大人200円（団体20人以上、150円）、

高校生150円（団体20人以上、100円）、中学生以下と75歳以上は無料。

### (1) スタジオの公開番組

来観者が自由に見学することができる450スタジオ。毎回、日替わりのゲストが出演する『スタジオパークからこんにちは』（総合）などの公開放送を行っている。

### (2) 主な展示体験コーナー

#### ① ウェルカムスタジオ

ハイビジョンカメラで来観者の姿を150インチのハイビジョンスクリーンに映してお出迎え。子ども向けのキャラクターショーも実施している。

#### ② デジタル放送ひろば

地上とBSのデジタル放送の仕組みや受信方法などを実機展示しながら詳しく紹介。

#### ③ デザインランド

技研の開発した「アクシビジョンカメラ」で立体的な映像合成を体験できるコーナーをはじめ映像、音響デザインと放送とのかかわりを楽しく体験。

#### ④ アフレコスタジオとスタジオQ

「アフレコスタジオ」は映像に合わせて声優の体験ができるブース。「スタジオQ」はニュース原稿を読んでアナウンサー体験ができるコーナー。

#### ⑤ スタジオウォッチング

450スタジオ以外にも放送センター内の主なテレビスタジオの制作風景をモニターを通して公開。

#### ⑥ とびだすハイビジョンシアター

世界初のメガネなしで見られる立体ハイビジョン映像。

#### ⑦ おかあさんといっしょひろばと世界遺産コーナー

NHKの人気キャラクターに出会える「おかあさんといっしょひろば」では記念写真撮影なども行える。「世界遺産コーナー」では世界遺産の数々を映像で紹介。

### (3) 新生スタジオパーク建設計画

スタジオパークは、11年の完全デジタル化に合わせて、展示コーナーを全面リニューアルすることになり、11年4月から工事のために約半年間、全館休館とし、10月10日に新装オープンの予定。

## 2. みんなの広場 ふれあいホール

「みんなの広場ふれあいホール」では、さまざまな公開番組やイベントなどを開催している。また、06年6月からは、3階の展示スペースを「ふ

れあいホールギャラリー」としてリニューアルし、「市民に開かれた文化発信スペース」として一般貸し出し（有料）を開始した。また、放送センターの番組公開ライブラリーとして3階にアーカイブスを併設している。10年度は、東日本大震災の影響で、3月12日から27日まで臨時休館とした。10年度は、ギャラリーとアーカイブス合わせて3万1,767人の利用があった。

開館時間 午前10:00～午後6:00

休館 年末年始（12月29日～1月3日）

入場料 無料

### 3. NHK放送博物館

“発信・発見・感動のあるミュージアム”として、10年度も積極的・意欲的に事業展開を行った。

09年度には1956年の開館以来54年間の年度入館者数最高記録（13万9,887人）を達成したが、10年度もこれに次ぐ歴代2位の入館者数（13万6,027人）を記録した。幅広い年代層にわたる入館者の確保・増加を図りながら、視聴者とNHKを結ぶ最前線としての重要な役割を果たしてきた一連の取り組み・業績が評価され、10年4月19日には、NHK会長特賞が福地茂雄会長から放送博物館担当者（代表・浅野加寿子館長）に贈られた。

また、10年度、放送博物館は「日本の博物館100」に選ばれた。これは社団法人日本博物館協会が選定したもので、英文冊子「Museum in Japan 100」に掲載され、10年10月に中国上海市で開かれたICOM（世界博物館会議）の総会で配布された。

放送博物館の業務運営の基本は、放送の歴史にとって貴重な資料（放送文化財）の計画的な収集、分類、分析、保存、展示等であり、これらの上に立つて行う事業展開の2本の大きな柱として、「魅力ある企画展示」と「愛宕山ホールにおけるイベント」がある。

企画展示では、「がんばろう ふるさと・全国NHK放送局展」と、これをさらに発展させた「こんにちは ふるさと・地域放送局のちから～NHK〇〇～」のほか、「スペシャルドラマ『坂の上の雲』の時代～日露戦争従軍騎兵将校の遺した水彩画～」、「愛宕山時代の放送～AK・BK・CK～」 「NHK放送技術研究所80年」 「昭和初期なつかしの番組表」 「NHK海外放送局」 「大河ドラマ50」 「寄贈資料」 「戦後の娯楽番組」 など研究調査の蓄積や放送現場等との連携に立脚した多彩な展示を行い、内外から注目された。

イベントでは、地域からの発信の先鞭をつけた

「がんばろう ふるさと〇〇放送局・〇県の日」をはじめ、「愛宕山文化講座」「大河ドラマをめぐる人たち」「ザ・ベストテレビ 受賞作品上映会」「新 みんなの健康教室」「放送なるほど講座」「中高生のための放送講座」「愛宕山俳句の会」「俳句自然塾」「ペーパークラフト教室」「愛宕山コンサート」「愛宕山講談会」ほか魅力あるラインナップで、入館者の期待に応えた。

こうした結果、入館者の数が増えているだけでなく、従来比較的少なかった若いカップル、30・40代の家族連れなども多数訪れるようになり、入館者層の幅が幼児から高齢者にわたって広がってきている。

このほか、放送博物館では車椅子での入館者用に1階と中2階を結ぶエレベーターを設置（08年度末）してバリアフリーの充実を図るなど、安心・安全・清潔な施設運営の徹底と、心のこもった丁寧な対応を行っている。

また、産業文化博物館コンソーシアム（COMIC）、港区ミュージアムネットワークなど博物館相互の連携を密にして、地域文化の中核としての活動強化に努めている。加えて、映像・活字・電子系のメディアを通じての戦略的なPRにも積極的に取り組んでいる。

#### （1）資料の収集・保存

放送史上貴重な資料（図書・文献、台本、機器など）の収集を行った。また、資料データベースの充実を図った。

#### （2）展示・企画展

「がんばろう ふるさと・全国NHK放送局展」（3月～5月、天津放送局・津放送局）（5月～7月、横浜放送局・千葉放送局・さいたま放送局）（7月～9月、名古屋放送局）（9月～10月、大阪放送局）、「こんにちは ふるさと・地域放送局のちから～NHK〇〇～」（3月～5月、長野放送局）、「スペシャルドラマ『坂の上の雲』の時代～日露戦争従軍騎兵将校の遺した水彩画～」 「愛宕山時代の放送～AK・BK・CK～」（4月～8月）、「NHK放送技術研究所80年」（7月～9月）、「昭和初期なつかしの番組表」（9月～11月）、「NHK海外放送局」（11月～2月）、「大河ドラマ50」（12月～3月）、「寄贈資料」（4月～8月）、「戦後の娯楽番組」（4月～6月）を実施した。

#### （3）普及業務

##### ①イベント

「がんばろう ふるさとイベントデー」「愛宕山文化講座（林真理子、金田栄一、中岡望、中川洋吉、村山定男、杉田成道、松原智恵子、絹谷幸

二、傳益瑤の各氏)」「スペシャルドラマ『坂の上の雲』第2部を語る」「大河ドラマをめぐる人たち『江～姫たちの戦国～』」「ザ・ベストテレビ受賞作品上映会」「放送から生まれた歌」「新みんなの健康教室」「放送なるほど講座」「中高生のための放送講座」「ペーパークラフト教室」「愛宕山コンサート」「愛宕山講談会」「藤山一郎を歌う」「愛宕山俳句の会」「俳句自然塾」「NPO法人ふるさと小中学生俳句ぷらざ 俳句大会表彰式」「菅野園子の朗読会」などを開催した。

## ②NHK番組を見る会

「ハイビジョン特集『決定版 列島縦断鉄道12000km最長片道切符の旅』」「NHKアーカイブス『白くまピース まもなく10歳』」「探検ロマン世界遺産」「ハイビジョン特集『関口知宏が行くヨーロッパ鉄道の旅』」「ハイビジョン特集『世界遺産の旅』」「世界ふれあい街歩き」などのほか、落語などを上映した。

## ③移動放送博物館

水戸放送局（6月3日（木）～4日（金））、岡山放送局（6月12日（土）～13日（日））、北九州放送局（8月23日（月）～28日（土））、釧路放送局（10月2日（土）～3日（日））、大津放送局（10月23日（土）～24日（日））、青森放送局（11月6日（土）～7日（日））、福岡放送局（12月4日（土）～5日（日））、岡山放送局（1月29日（土）～2月6日（日））で開催し、1万9,326人が来場した。

## ④中・高生のための放送講座

7月29日（木）～30日（金）の2日間実施。11組42人が参加した。

## ⑤学芸員実習

8月26日（木）～9月1日（水）の7日間実施。8大学11人が参加した。

## 東日本大震災への対応

3月11日に発生した東日本大震災では、放送博物館では来館者に被害はなく、展示物の破損もなかった。震災当日は18時まで、1階ロビーの大型モニターなどで、来館者や閉館後に情報を求めて訪ねて来られた方々に震災情報を提供した。12日から22日までは臨時休館とし、博物館の建物自体や周辺部、展示場や倉庫などの安全点検・確認とさらなる補強等を、専門家の協力も得て実施した。一方に節電の要請、他方に「公共の文化施設の一日も早い開館を」という、ある意味相反するともいえる社会的要請があるなかで、3月23日から31

日までには11時から15時に時間を短縮し、1階・2階に限定して開館した。

# NHKの情報公開

## （1）NHKの情報公開の特色

01年7月から開始したNHKの情報公開の主な特色は、次の3点である。

①国や地方自治体のように法律・条例によって義務づけられて行うのではなく、NHKが自主的に実施するものである。放送法の精神や言論・報道機関としての性格に照らし、NHKの自主・自律性に配慮した結果である。

②放送番組や放送番組の編集に関する情報を記録した文書については、情報開示の求めの対象外としている。NHKが公共放送としての使命を果たしていくためには、放送番組編集の自由の確保は不可欠である。もし番組そのものや、番組素材、その制作・編成関係の文書を開示するとすると、自由な番組編集に支障が生じ、ひいては公共放送としての使命が果たせなくなることから、情報開示の求めの対象外とした。そのうえで、可能な範囲で関係情報の提供に努めていく。

③NHKの不開示等の判断に対して、第三者機関による公正・客観的なチェックの仕組みを整えている。5人の有識者で構成される「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」が、視聴者からの再検討の求めがあった際に、委員会としての意見をNHKに述べる。NHKは、その意見を尊重して最終判断を行う。

## （2）NHKの情報公開の仕組み

NHKの情報公開は、基本的枠組みを定めた「NHK情報公開基準」（00年12月制定）と、それをさらに具体化した「NHK情報公開規程」（01年6月制定）に基づいて取り進めている。この情報公開規程は、情報公開基準に基づき情報公開を実施していくために必要な事項を定めている。主な内容は次のとおり。

### ①開示の求めの対象となる文書

NHKの役職員が業務上共用するものとして保有している文書（フロッピーディスク・サーバー等に電磁的に記録されたものを含む）が、開示の求めの対象となる。

ただし、放送番組編集の自由を確保する観点等から、次のものについては対象外となる。

（i）放送番組および放送番組の編集に関する情報を記録したもの（放送番組の企画、取材、収録等について記録した文書など。ハードディスク



ク・DVD等を含む)。

(ii) 書籍、雑誌等不特定多数の人に販売することを目的として発行されるもの。

(iii) 歴史的もしくは文化的な資料または学術研究用の資料としてNHK放送博物館等において特別の管理がされているもの。

## ②開示の求めのできる者

NHKの放送の視聴者。

## ③受付場所・方法

全国の放送局・支局に、日本語で記入した申込書を持参または郵送で提出する。

## ④開示できない文書

開示の求めの対象となる文書は、原則として開示する。

ただし、次の情報(不開示情報)が記載されている場合を除く。

(i) NHKの権利利益、地位、事業活動に支障を及ぼすおそれがあるもの。

(ii) NHKの審議、検討、協議が円滑に行われることを阻害するおそれがあるもの。

(iii) 特定の個人を識別できるものや個人の権利利益を害するおそれがあるもの。

(iv) NHK以外の法人、団体、個人事業主の権利等を害するおそれがあるもの。

(v) NHKの保安に支障を及ぼすおそれがあるもの。

(vi) 契約によりNHKが守秘義務を課せられているもの。

## ⑤開示・不開示等の判断までの期間

申込書を受け付けた翌日から30日以内に開示・不開示等を判断する。判断結果は書面により連絡する。

## ⑥開示の実施方法

視聴者が開示の連絡を受けた日から2週間以内に、閲覧またはコピーを提供する(電磁的に記録されたものについては、プリントアウトし、閲覧またはコピーを提供する)。

## ⑦費用

閲覧のためにコピーやプリントアウトが必要な場合も含め、次の費用は視聴者負担となる。

- ・ 白黒コピー : 1枚につき10円
- ・ カラーコピー : 1枚につき50円
- ・ 郵送料 : 実費

## ⑧再検討の求め

一部開示・不開示の判断結果について、視聴者は2週間以内に「再検討の求め」ができる。

その場合NHKは、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会に諮問し、その意見を尊重して開

示・不開示等の最終的な判断を行い、直ちに書面により視聴者に連絡する。

## ⑨実施状況の公表

実施状況を適宜、公表する(毎月、インターネットホームページで公表)。

## (3)「開示の求め」

### ①受付状況

10年度は、全国の放送局・支局において、17人の視聴者による69件の開示の求めがあった。

### ②検討結果

59件について検討を終えた。(表1)

表1 「開示の求め」検討結果

判断結果	件数	備考
対象外	11件	うち、6件で情報を提供
開示	35件(A)	うち、一部開示10件
不開示	13件(B)	うち、文書不存在12件

### ③開示率(A/(A+B))

59件についての開示率は73%、開始当初の01年度からの開示率は71%となっている。

### ④「開示の求め」の内容

10年度に受け付けた69件の内訳は次のとおりとなっている。(表2)

表2 「開示の求め」の内訳

分野	件数	割合
経営一般	14件	20%
放送	11件	16%
営業	25件	36%
技術	1件	1%
広報・事業	10件	15%
総務・経理	8件	12%
その他	0件	0%

## (4) NHK情報公開・個人情報保護審議委員会

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、「開示の求め」についてのNHKの一部開示・不開示の判断に対して「再検討の求め」があった場合に、審議を行い、NHKに意見を述べる第三者機関である。

### ①委員

NHK情報公開・個人情報保護審議委員会の委員は、5人以内で、経営委員会の同意を得て会長が委嘱する。任期は2年、再任は可である。10年

度末現在、次の方々に委員を委嘱している。

- 委員 長 大島 崇志 氏 (弁護士)  
 委員長代行 佐藤 ギン子氏  
 (財女性労働協会名誉会長)  
 委員 穴戸 常寿 氏  
 (東京大学大学院法学政治学研究所准教授)  
 委員 宮内 忍 氏 (公認会計士)  
 委員 米倉 久邦 氏  
 (元共同通信社論説委員長)

## ②開催回数

10年度、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、10回開催された。

## (5)「再検討の求め」

### ①受付状況

10年度は、NHKが一部開示・不開示の判断をしたもののうち、9件について再検討の求めを受け付けた。

### ②審議状況

10年度、NHK情報公開・個人情報保護審議委員会は、前年度からの継続案件も含め、6件について審議し、2件の答申を行った。(表3)

NHKは、すべての案件について、審議委員会の答申どおりの最終判断を行った。

表3 10年度受け付け・審議案件(9件)

審議結果	件数
当初判断どおり不開示が妥当	2件
審議中・諮問準備中	7件

# NHKの個人情報保護

## (1) 個人情報保護法

### ①個人情報保護法の施行

05年度から「個人情報の保護に関する法律」(個人情報保護法。以下「法律」という)が全面施行され、NHKもこの法律が定める「個人情報取扱事業者」に該当することから、さまざまな法律上の義務が課され、個人情報の取扱いを適正に行うことが求められている。

### ②法律の義務の適用除外

この法律が成立する過程で、個人情報保護に関する「利用目的による制限」「適正な取得」「正確性の確保」「透明性の確保」といった基本原則が、「表現の自由」「報道・取材の自由」などの基本

的人権を制約するおそれがあるとの指摘が、メディアを中心になされた。

このため、法律は、報道機関が報道目的で個人情報を取り扱う場合、著述を業とする者が著述目的で個人情報を取り扱う場合などは、個人情報取扱事業者としての義務の適用を除外した。その一方で、義務の適用が除外される場合については、事業者が自主的に個人情報の適正な取扱いについての措置を講じ、それを公表するよう努めることを求めた。

## (2) NHKの個人情報保護の取り組み

### ①NHKの取り組み

#### ア NHK個人情報保護方針

NHKにおける個人情報保護に関する最上位の規程で、法律上の義務が適用除外となる報道・著述・学術研究分野を含め、NHK内の個人情報全般の取扱いについて宣言的に定めている。

#### イ NHK個人情報保護規程

法律上の義務の適用を受ける分野(営業・事務分野等)を対象に、実務上の手続きを中心に定めている。

視聴者本人から自己情報の開示等の求めが出された場合、原則として視聴者が求める措置をとることとなるが、開示するとNHKの業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合等は、求められた措置をとらなくてもよいとされている。

このような場合の救済策として、法律上の要請はないが、NHKとして自主的に、視聴者からの「再検討の求め」を受け付け、第三者機関「NHK情報公開・個人情報保護審議委員会」において審議してもらうこととしている。

ウ 報道・著述・学術研究分野に係る個人情報保護規程

法律上の義務が適用除外となる報道分野等について、自主的に、安全管理や苦情への対応について定めている。

### ②NHKにおける個人情報の管理・責任体制

上記規程に基づき、NHKにおける個人情報の管理については、副会長がこれを統括し(報道分野等については放送総局長)、各部局においては、各部局長が全責任をもって管理することとなっている。

しかしながら、10年度においては、個人情報の漏洩ろうじょうや紛失が合わせて26件発生した。

これらの事案はいずれもホームページで公表するなどしているが、NHKとして、今後はこのような事態が起きないように、個人情報の取扱いに

については、くれぐれも細心の注意を払い、その適切な取り扱いに努めていく。

### ③個人情報の開示等の求めへの対応状況

10年度に視聴者本人から出された個人情報の開示等の求めは、開示の求めが22件あり、検討結果は次のとおりである。

#### 個人情報の開示等の求めへの対応

検討結果	件数
開示	10件
一部開示	3件
適用除外	1件
検討中	8件

### ④「個人情報 再検討の求め」の審議状況

10年度に受け付けた個人情報に関する再検討の求めはなかった。

## 広 報

# I. 経営広報

## 1. 会長会見とマスコミ対応

NHK広報は、会長の定例記者会見をはじめ、臨時の記者会見、ブリーフ、発表、個別の取材対応などを通じて、NHKの経営情報をさまざまな形で発信している。

会長会見は原則月1回。会長と副会長、テーマに応じて関係役員が出席して、NHKや放送業界全体に関わることなどについて説明している。

3か年経営計画の2年目となったこの1年間は、2つの大きな経営目標である接触率や受信料支払率の向上に向けたNHKの取り組みについて、引き続き丁寧に伝えた。また、放送と通信の融合の時代のNHKの在りようについてマスコミ各社の関心が高く、こうした問題や11月に発足した「受信料制度等専門調査会」のねらいや検討状況などについて、適宜情報を発信した。

大相撲に関連する動きについては、長期間にわたって広報対応を行うことになった。力士による野球賭博問題の広がりを受けて、福地会長が7月の名古屋場所中継の中止を決め、緊急の記者会見で中止に至った経緯などを発表した。その後も、中継の再開や八百長問題を受けての対応について、記者会見などを通じて伝えた。この問題の取材を巡っては、スポーツ部の記者が日本相撲協会の関係者に不適切なメールを送っていたことが分

かり、事実関係や処分について必要な情報を発信した。

また、10年度は会長の交代があり、関連する動きについてマスコミ各社との取材対応にあたるとともに、1月25日に行われた松本新会長の就任記者会見や新聞・雑誌への就任インタビューなどを通じて、松本会長の基本的な考え方や、今後、NHKが取り組むべき課題などについて積極的に広報した。

年度末となった3月には、東日本大震災が発生し、震災についての報道や被災地・被災者に向けたNHKの取り組みを迅速に発信した。こうした取り組みについては、「NHKの震災対応」として、NHKオンラインでまとめて見ることができるようにして、安否情報やインターネットを使ったサービス、被災地への義援金についてなど、さまざまな情報を分かりやすく伝えた。特に総合テレビやラジオ第1放送のライブストリーミングはマスコミ各社の関心が高く、関連部局と連携しながら広報対応を行った。このほか政権交代後初の本格的な国政選挙となった7月の参議院選挙については、テレビ・ラジオの開票速報のほか、インターネットなどにも力を入れ、開票の状況や政局の動向をきめ細かく伝えることを積極的に広報した。

景気低迷のなか、支払い率の向上に努める営業の取り組みについては、支払い滞納者への督促や強制執行、それに未契約者への対策を中心にきめ細かく広報した。

### ◇会長定例記者会見の主な内容

- 4月 09年度の営業業績  
支払督促異議訴訟札幌地裁判決  
「渋谷DEども10」  
民放が始めたラジオのインターネット配信
- 5月 「10FIFAワールドカップ南アフリカ」放送計画  
「NHK視聴者サービス報告書2010」  
放送技術研究所の一般公開  
受信料支払督促確定者への強制執行
- 6月 第1期営業業績見込み  
強制執行申し立て  
BSアナログ放送受信アンケート調査  
「NHK WONDER Land」
- 7月 大相撲名古屋場所中継関連  
参議院議員選挙放送  
完全デジタル化まであと1年  
「地球最古の恐竜展」
- 9月 大相撲秋場所中継再開  
第2期営業業績見込み

- ABU総会  
「ABUロボコン2010カイロ大会」
- 10月 大相撲取材をめぐる不適切な事案  
前半期番組総括  
上半期営業業績見込み  
第37回「日本賞」  
「NHK受信料制度等専門調査会」の狙い
- 11月 「NHKネットクラブ」開始1周年  
「NHKスタジオパーク」のリニューアル  
インターネットによるサービス展開
- 12月 第4期営業業績見込み  
『第61回NHK紅白歌合戦』
- 1月 任期を終えるにあたって（福地前会長）  
ラジオのインターネット配信  
年始の職員の不祥事
- 2月 「NHK福祉大相撲」中止  
大相撲八百長問題受け止め  
第5期営業業績見込み  
「番組技術展」  
V-Lowマルチメディア放送
- 3月 「第62回日本放送協会放送文化賞」  
「NHKネットクラブ」100万人突破  
続く不祥事について  
今後の大相撲中継

#### ◇その他の主な記者会見等

- ・大相撲名古屋場所中継中止 (7.6)
- ・大相撲取材関連の懲戒処分 (11.2)
- ・松本正之会長就任会見 (1.25)
- ・小野直路副会長就任会見 (2.8)

## 2. 国際広報

国際広報は、NHKと海外メディアの接点としての役割と、NHKの国際業務に対する国内視聴者の理解と支持を得る役割を担っている。

海外メディアへの対応では、年間を通じヨーロッパやアジアを中心に世界各地から取材があり、外務省招へいの海外プレスも数多く来局した。NHKの災害報道のノウハウや国際放送の取り組み、地デジやスーパーハイビジョンなど、テーマは多岐にわたった。松本会長の就任についても、複数のメディアに記事が掲載されたほか、アメリカの業界紙大手からもインタビューの依頼があるなど、関心の高さをうかがわせた。

東日本大震災では、大手メディアを含む世界中からさまざまな依頼が殺到し、関連部局と連携して対応にあたった。地震発生直後は、現状を問い合わせる電話インタビューが多く、その後は、NHKの災害報道のノウハウや態勢、日ごろの準

備・訓練についての問い合わせが相次ぎ、アメリカの有力紙ワシントン・ポストや、韓国の公共放送KBS、英字紙のジャパントイムズをはじめとする多数の媒体で詳報された。

また、震災をめぐることは、特別編成を組んで放送を続けた国際放送「NHKワールド」の取り組みを幅広くPRしたほか、「NHKワールド」が臨時の措置として国内のケーブルテレビに番組を提供していることなどを丁寧に伝え、日本に暮らす外国人に向けての発信にも力を注いだ。

国際協力では、NHK副会長が会長を努めるABU（アジア太平洋放送連合）の「ロボットコンテスト」が8月にカイロで開かれたのに続き、10月には総会が東京で開かれ、関連部局とともに、アジアでNHKが果たす主導的な役割についての理解促進に努めた。デジタル化時代における放送の力というテーマには、国内外からの高い関心が寄せられ、ドイツやイギリスの公共放送と比較する特集記事も掲載された。

国際コンクールの受賞番組については、広島発ドラマ『火の魚』が「イタリア賞」と「モンテカルロ・テレビ祭」でそれぞれ部門最優秀賞を受賞。国際共同制作の科学番組『大科学実験』など他の大型番組とともに、機会を見つけてNHKの番組の質の高さを内外に発信した。

広報資料としては、年次活動報告「NHK Annual Report 2010-2011」を英語、中国語、韓国語の3か国語で合わせて1万2,000部を作成した。またこのビデオ版にあたる「NHK 2010」も同じ3か国語で制作し、海外からの来訪者や国際イベント会場、海外総支局に配布して、NHKの理解促進に努めた。

さらに、10年度は、経営情報や番組情報を英語に翻訳し、外国人特派員協会や在京の特派員に、直接、配布する取り組みを始め、紅白歌合戦や「ジャパシンドローム」キャンペーン、スーパーハイビジョン関連の発表会について紹介した。

## 3. 技術・デジタル放送の広報

11年7月の放送の完全デジタル化を最重点課題の1つとして位置づけ、周知広報に全力を挙げて取り組んだ。特に定例の会長会見等で、送信設備のデジタル化の進捗状況と受信側の対策について、周知広報を徹底した。

送信側の状況としては、12月末の時点で、当初の計画通り2,070地区のすべてで、地上デジタル放送の中継局が開局した。3月末には、当初の目標通り世帯カバー率99.5%を達成した。残り0.5%

については、衛星セーフティネットによるカバーを進めていく。受信側の課題として、辺地の自主共聴施設のデジタル化や、ビル陰共聴、集合住宅、南関東のVHFアンテナの交換など対策の強化が求められ、周知広報を強力に進めた。NHKが今年度新たに実施した受信側の支援策についても、記者レクチャーなどきめ細かな周知広報を行い、各新聞やウェブ紙にも幅広く掲載された。

これらの取り組みにより、ビル陰共聴施設のデジタル化率が、10月末の78%から2月末には96%になるなど、大幅にデジタル化が進んだ。

個別世帯への周知を行うため、7月からアナログ総合テレビとBS2で、レターボックスの上下の黒みの部分を利用して、番組の冒頭で、受信側の対策のお知らせをスーパーした。内容はUHFアンテナへの交換、集合住宅のデジタル化、ビル陰共聴のデジタル化など。9月からは、関東地方で番組の冒頭だけでなく番組中も常時スーパーすることにし、順次、全国に拡大した。

NHK、民放と共同で完全デジタル化の周知広報を行うため、アナログ放送終了のほぼ1年前の7月4日（日）、午後6時前の1分間で「全国一斉地デジ化テスト」の番組を放送した。アナログ放送とデジタル放送それぞれ別々の番組内容で、アナログ放送では停波したイメージを取り入れ、アナログ放送が見られなくなる事実の周知を行った。NHKは総合、教育の両方の波を使って実施した。1年前の7月24日には、総務省やDpa（デジタル放送推進協会）などと共に、「日本全国地デジカ大作戦」の集いを開催した。

受信側の動向として、毎月の会長会見時にデジタル放送の普及状況の速報値を発表し、普及の牽引役を務めてきた。受信機の単月普及数は、エコポイント制度の効果で10年12月に過去最高となり、地上デジタル受信機が約550万台、BSデジタル受信機が約510万台を記録、11年3月末には、累計でそれぞれ1億1,000万台、1億500万台と、いずれも1億台を超えた。

ウェブによる広報展開も広く活用した。デジタル放送ポータルサイト「NHKデジタル」に、最新の情報を掲載し、デジタル広報番組「デジタルQ」の動画を活用した分かりやすい解説や、各局で制作した特色ある地デジPRスポットを紹介、またキャンペーンなども展開した結果、好評を得て多数のアクセスに結びついた。

一方で、80年の節目を迎える放送技術研究所の一般公開（5月27日～30日）に連動し、さまざまなメディアに積極的な広報を展開した。「電波新

聞」には、3月から5月、技研公開前日までの17回連載で、技研の歴史や最新の研究開発の紹介、福地会長や永井技師長などのトップインタビューが掲載され、「日刊工業新聞」にも最新の研究成果が連載された。技研公開のプレスプレビューには、例年の約3～4倍にあたる約100人のマスコミ関係者が参加し、各紙に数多くの記事が掲載された。また、技研公開記念式典に合わせ、「電波新聞」に特別記事（全8ページ）が掲載され、英文誌「JEI特別号（全35ページ）」が刊行されるなど、国内をはじめ、幅広く海外にも、公共放送NHKのトップメッセージや先進的な取り組みが広報された。ウェブ紙にもきめ細かく対応し、ネットでの露出度を高めた。

その他、デジタル放送のメリットとNHKの放送技術全般を解説した冊子「NHKの放送技術」（10年4月）を発行した。

3月に発生した東日本大震災に伴い、受信障害状況やNHKの支援策を積極的に広報した。被災した東京タワーのアンテナ損傷による受信障害、被災にあった宮城県志津川（南三陸町）で地上デジタル予備送信所の設置、避難所へのテレビ・ラジオの設置、安否伝言ポストの設置など、視聴者や被災者の立場に立った周知広報に徹した。また、電力不足に伴い、ラジオ第2放送の減力放送など、NHKの節電対策についても迅速に広報した。

#### ◇そのほかの主な報道発表

- ・スーパーハイビジョン・フル解像度カメラを開発（5.18）
- ・高性能で小型のスーパーハイビジョン符号化装置を開発（5.19）
- ・スーパーハイビジョン音響の家庭再生方式を開発（5.20）
- ・三次元音響ミキシングシステムを開発（5.20）
- ・高分子膜を用いた超軽量スピーカーを開発（5.21）
- ・地上波で大容量伝送が可能な技術を開発（5.24）
- ・電波テレビカメラ用ミリ波帯大型リフレクタレーアンテナを開発（5.24）
- ・大規模な中継番組でも環境にやさしく（6.10）
- ・地上デジタル受信機8,000万突破（7.7）
- ・BSデジタル受信機8,000万突破（8.5）
- ・NHKと日立が、動画電子透かしを埋め込むことができるトランスコーダーを共同開発、動画ファイルデータの流出対策に貢献（8.31）
- ・スタジオ用LED照明、消費電力80%オフ（9.8）
- ・“CEATEC JAPAN 2010”に「なっとく！デジタル・エコハウス」を展示（10.1）

- ・日本初！「排気ガスゼロ小型中継車」を開発（10.6）
- ・地上デジタル受信機9,000万突破（11.5）
- ・ノンリニア・アーカイブス装置を開発（11.11）
- ・手振れを解消する肩載せ型のカメラ防振装置を開発（11.12）
- ・地デジ・BSデジ受信機普及台数 11月単月歴代1位（12.7）
- ・小冊子「マンガでわかる！ デジタル放送」VOL.8 “ネット接続編” 完成（12.14）
- ・地上デジタル受信機 1億台突破（1.11）
- ・実用的な小型SHVプロジェクターを開発（1.13）
- ・アナログ放送の終了に向けた放送対応について（1.19）
- ・第40回 番組技術展（2.3）
- ・BSデジタル受信機1億台突破（2.7）
- ・グローバルな共用IPネットワークを用いたスーパーハイビジョンライブ中継に成功（2.22）
- ・マラソン中継で初 新開発の受信システム（3.4）

に支えられ、10年の流行語大賞に選ばれるなどブレイクした。

雑誌の「SWITCH」「an an」「モノクロ」「ROCKS」や、ウェブサイトの「MoonLinx」「MSN」などでも、NHKの特集記事が生まれ、若年層や未接触者に向けた広報展開を図れた。

新番組や新キャスター、教育番組のレギュラー出演者、衛星放送番組のキャスターなどの発表についても、本人同席の会見を行い、PRに努めた。

61回を迎えた『紅白歌合戦』では、「応援隊」「司会者」「出場者」「曲目」「曲順」「審査員」など、決定の節目ごとに記者会見や発表を行ったほか、大学生に向けて紅白担当者が番組を説明する「紅白キャンパスミーティング」を実施した。さらに、出場者発表に合わせて会見の様子をライブストリーミングで生中継するなど、多彩な広報展開を図った。

11年度の新番組では、改定の柱となる週末の朝や夜の番組について、集中的に取材会や発表会を実施するなど、効果的かつ効率的な広報を進めた。

10年度に行った取材会・試写会は140回に達した。

#### ◇放送総局長定例記者会見の主な内容

- 4月 『NHKスペシャル～サッカーワールドカップ』  
新年度番組
- 5月 「SAVE THE FUTURE」  
吉永小百合平和への絆コンサート  
「ABUロボコン2010」
- 6月 夏の特集番組  
『NHKスペシャル～恐竜絶滅』  
ハイビジョン特集『日本のいちばん長い夏』
- 7月 『NHKスペシャル～灼熱アジア』  
「妖しき文豪怪談」  
「ハーバード白熱教室」  
戦争証言アーカイブス
- 9月 10年度後期の番組改定  
『NHKスペシャル～日本列島』  
無縁社会キャンペーン  
NHK文化祭2010
- 10月 『NHKスペシャル～日米安保50年』  
『第61回紅白歌合戦』  
「NHKクリエイティブライブラリー」
- 11月 年末年始特集番組  
『NHKスペシャル～日本人はなぜ戦争へと向かったのか』  
『第61回紅白歌合戦』総司会発表など  
大河ドラマ50作記念キャンペーン

## II. 番組広報

### 1. 記者会見

8月を除く毎月1回、記者クラブ加盟社を対象に放送総局長の定例記者会見を行い、NHKの番組広報に努めた。副総局長も出席し、番組情報・見どころなどを中心に紹介した。特に重要な番組については映像での案内や番組制作者や出演者を招いてPRした。同様の説明会を広報部副部長がテレビ雑誌などのメディアに対しても同日に行った。

番組改編時や夏の特集、年末年始特集については、冊子を2,000冊発行し、各メディアへ配付するとともに、総局長会見で記者クラブに対して内容を説明した。テレビ情報誌や一般の週刊誌、記者クラブ非加盟社に対しては、別途会見して番組内容について説明した。

総局長会見以外にも取材会や試写会に精力的に取り組み、「大河ドラマ」や『連続テレビ小説』をはじめとするドラマ番組や芸能番組、また『NHKスペシャル』などについても、そのつどマスコミ各社に周知し、出演者やプロデューサーが同席して会見を開いた。『龍馬伝』は30回を超える会見や取材会を開催し、およそ300の媒体に取り上げられた。また、「ゲゲゲの女房」は高視聴率

- 12月 『ゆく年くる年』  
『NHKスペシャル～邪馬台国を掘る』  
あすの日本「日本症候群をのりこえろ」  
『龍馬伝』を終えて『江』を前に
- 1月 11年度番組改定  
「無縁社会」  
障害福祉賞原作ドラマ『風をあつめて』  
オンデマンド年末年始の動向
- 2月 『NHKスペシャル～生活保護の危機大阪  
市の苦悩』  
放送記念日特集番組  
新BSの特集番組
- 3月 東北関東大震災に関する報道  
BSデジタル放送の2波化

### Ⅲ. 広報制作

視聴者にテレビ・ラジオの放送予定を中心に伝える番組広報番組、デジタル放送への移行周知をはじめ、公共放送の姿勢を正しく伝える経営広報番組やスポットを制作・放送した。

また、同様にポスターや冊子など印刷物の編集・作成、インターネットや携帯などウェブサイトの企画開発、ネット広告・交通広告などによる放送以外の広報活動を行った。

#### 1. 広報番組

##### (1) 番組広報

「番組スポット」(地上波2波・週およそ3時間19分 衛星3波・週およそ7時間49分)を中心に、地上・衛星波で、毎日、番組PRを放送した。

『土曜スタジオパーク』(生放送)は、毎回1つの番組を取り上げ、豪華なゲストと共に見どころや舞台裏など、魅力をたっぷり伝えた。さらに、ゲストと視聴者の交流の場を設けるとともに、直近のNHKの動きを伝えたり、番組・イベントなどの話題を掘り下げたりするコーナーなどを設け、NHKの最新情報を発信した。

さらに、最新の番組制作情報、経営情報や番組の舞台裏などを紹介する『プレマップ』も随時放送した。

##### (2) 経営広報

毎週日曜放送の番組『三つのたまご』。NHKの活動や経営課題を伝えるほか、視聴者の意見や質問に答えたり、ふれあいセンターに寄せられる視聴者の声を紹介したりすることにより、これからのNHKを考えた。また、公共放送の使命として、地球環境について考える「環境キャンペーン」、

デジタル放送普及推進のための「デジタル放送キャンペーン」を実施した。また、大きな経営課題であったBS2波化の周知にも積極的に取り組んだ。

「環境キャンペーン」では、アヤカ・ウィルソンさんを起用し、生物多様性の大切さのメッセージを伝えるスポットを放送した。また、関連番組と連動したクラッチも数多く放送した。

『デジタル放送キャンペーン』では、継続番組の『デジタルQ』に加え、新たに毎月1回放送の特番『デジタルテレビライフがやってきた!』を開始。また、スポットには綾小路きみまろさん、高田純次さん、藤岡弘、さん、高畑淳子さん、ケンドーコバヤシさん、ピースなどといった、今注目のタレント・俳優陣が出演する多彩な内容のものを年間を通して制作し、放送した。また、アナログ放送を視聴している人を対象にしたアナログ放送独自スポットも放送、デジタル放送普及のためのきめ細かい対応に努めた。

また、BS2波化のPRでは、2波化をストレートにPRするイメージスポットを始め、仲間由紀恵さんと児玉清さんを起用したBSプレミアムの番組の魅力伝えるミニ番組やスポット・クラッチ、そして、チャンネルや電子番組表の変更情報やマルチ編成の視聴方法を解説するスポットまで、幅広く制作し放送した。また、『デジタルQ』、『デジタルテレビライフがやってきた!』のデジタル放送関連番組でも、2波化の情報と共に高画質・高音質のBSデジタル放送の魅力を伝えた。

##### (3) そのほかの番組

5月には、イベント関連の『渋谷DEどーも2010』を放送。11月には『スペシャルドラマ～坂の上の雲』をPRする特番とプレマップ。そして、大河ドラマ『龍馬伝』の最終回をPRする『スタジオパーク龍馬伝スペシャル』を制作し、人気の大型番組を後押しした。また、12月には『第8回ミニミニ映像大賞 グランプリ決定』を制作・放送した。

#### 2. 広報印刷物などによる取り組み

##### (1) 経営広報関連

①「ことしの仕事2010」を作成、10年度放送番組の編成のほか各部署の事業計画を紹介。

視聴者会議やふれあいミーティングなど視聴者との対話活動などに活用された。また、英・中・ハングル版も作成し、海外からの視察団、国際会議などで配布した。

②小学校5年生の社会科単元「生活と情報」(マ

スコミの役割)の副読本として、放送のしくみと公共放送の役割を解説した冊子「NHKジュニアブック」とビデオ「ニュース番組ができるまで」を作成。全国の希望する小学校に配布(ビデオは貸出)した。また、聴覚障害者向けに字幕版DVDも合わせて作成し、全国のろう学校等に配布した。このほかNHKオンラインの子ども向けサイト「デジタルミュージアム」にも掲載し、より幅広い活用を図った。

**(2) 番組広報関連**

①大河ドラマ『龍馬伝』『江～姫たちの戦国』、『連続テレビ小説』『ゲゲゲの女房』『てっぺん』のポスター、リーフレット、PRビデオなどを作成・配布して、視聴者イベントや営業活動現場で活用された。

②若者世代との接触率向上を図るため20～30代向け番組情報冊子「ウォッチ」と、10代向けリーフレット「ワンダー」を隔月で発行、若者向け公開番組やイベント会場、ふれあいミーティング、営業活動などのほか、フリーペーパーとして飲食店等への設置なども行い視聴者層の拡大を目指した。

**(3) デジタル放送の普及・周知関連**

放送の完全デジタル化を翌年に控えて普及の遅れが懸念される首都圏を中心に、年間を通してJR電車内の中吊り広告、トレインチャンネル、各駅に設置された電子掲示板(デジタルサイネージ広告)を実施。番組PRとともにデジタル放送への早めの準備を呼びかけた。印刷物ではデジタル放送の受信方法を分かりやすくマンガで解説した

表1 広報番組一覧(2010年度)

	番組名	放送時間	内容	備考
地	三つのたまご 〔継続〕	総合(日) 前11:35～11:54	経営広報番組「三つのたまご」は、公共放送NHKを視聴者により知ってもらうために、さまざまな取り組みを紹介していく。また毎月1回は経営トップが出演しNHKの現況や課題を直接視聴者に語る。地域放送局の取り組みと地元の反応などをリポーターが伝える「あなたの街のNHK」コーナーもパワーアップして引き続き伝えていく。	本体制作 (42本)
	土曜スタジオパーク 〔継続〕	総合(土) 後2:00～3:00 (生放送)	毎回、1つの番組を取り上げ、旬のゲストと共に見どころや舞台裏など、魅力をたっぷり伝える。また、ゲストと視聴者の交流や講座もの、さらにはNHKの最新トピックスと盛りだくさんで紹介する。	本体制作 (37本)
	もうすぐ9時 プレマップ 〔継続〕	総合(月～木) 後8:43～8:45	番組の見どころ、キャンペーン、イベント、経営情報、最新の放送技術など、毎回1つのテーマで公共放送NHKの「今」を伝える広報番組。新キャスターに上條倫子アナを迎え、さらに充実。視聴者の理解を深め、接触者率の向上を促進する。	NSCに全面委託 (180本)
	デジタルQ 〔継続〕	総合(日) 前6:50～6:53	デジタル放送に関する視聴者の疑問を解決し、魅力を紹介する「デジタルジム」が番組の舞台。出演は「デジタルコーチ」の鈴木奈穂子アナウンサー、「ジムの生徒」の瀬川瑛子さんと佐藤弘道さん。毎回、タイムリーなテーマを取り上げ、理解して欲しいポイントは「歌と体操」を交え、3人が印象的に伝える。	NSCに全面委託 (32本)
	週末プレマップ 〔継続〕	総合(土) 後6:42～6:45	週末番組の見どころ、NHKオンラインの特別企画などを伝える広報番組。新キャスターに上條倫子アナを迎え、さらに充実。視聴者の理解を深め、接触者率の向上を促進する。	NSCに全面委託 (40本)
	NHKプレマップ 〔継続〕	総合 随時	経営広報的な視点を交えて、各種キャンペーンや特集編成などを紹介するミニ番組。(個別番組のPRは担当部局が制作する。)	NSCに全面委託 (10本)
	デジタルテレビライフがやってきた! 〔新設〕	総合ほか毎月放送	デジタル化されると、街や暮らしがいったいどう変わるのか?メリットはあるのか?4月から始まった特番「デジタルテレビライフがやってきた!」はデジタル化に関連するさまざまな現場を取材して視聴者の疑問に答える番組。出演は渡辺いっけいさんと村上由利子アナウンサー。	NSCに全面委託 (年間12本)
	デジタル放送推進スポット クラッチ 〔継続〕	全波 随時(5秒・30秒・1分他)	番組・事業・経営広報などNHKのさまざまな取り組みを視聴者に効果的に伝え、公共放送の理解促進を深める。	NSCに全面委託
	地上波スポット 〔継続〕	総合・教育 随時(30秒・1分)	番組・事業・経営広報などNHKの様々な取り組みを視聴者に効果的に伝え、公共放送の理解促進を深める。	本体制作
	経営広報スポット・クラッチ 〔継続〕	地上・衛星 随時(5秒・30秒・1分他)	受信料のお知らせや「環境」「地域応援」などNHKが取り組んでいる重要なキャンペーンをスポット展開し、視聴者のNHKに対する理解を促進する。	NSCに全面委託



	番組名	放送時間	内 容	備考
地上	中央放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催当月 最終日曜 前11:33～11:35	各月の審議の概要を伝える。 (特集編成等に変更する場合あり)	本体制作
	地方放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催翌月 第2土曜 前11:13～11:15	各月の審議の概要を伝える。 (特集編成等に変更する場合あり)	本体制作
	国際放送番組審議会 〔継続〕	総合 原則開催当月 最終日曜 前 6:51～ 6:53	各月の審議の概要を伝える。 (特集編成等に変更する場合あり)	本体制作
衛	あなたのアンコール *日曜のみに 〔継続〕	BS2 (日) 前10:00～ (11:54)	最近放送された番組の中から、視聴者コールセンターに再放送のリクエストが多く寄せられたものをアンコール放送。番組制作の舞台裏なども紹介。	NSCに全面委託 (30本)
	BSプレマップ 〔継続〕	BS3波・地上 随時 (3分、5分)	ハイビジョン特集など良質なBS番組の見どころを、コンパクトに凝縮。迫力ある映像と多彩な構成でアピール。	NSCに全面委託 (75本)
	BS大好き 〔継続〕	BS2 (月)～(日) 後 6:55～ 6:58 BSHi (月)～(木) 後 6:55～ 6:58 *(金)後 6:45～ 6:48	当日放送するBS3波の夜の番組を中心に、スピーカーに広報する番組。VTRやCGなどを使って、コンパクトに紹介する。	NSCに全面委託
	BSスポット 〔継続〕	BS3波・地上 随時 (15秒・30秒・1分)	BS3波の特性を生かした番組の魅力、コンパクトに広報。戦略的な編成で、番組への関心を呼び覚ます。	NSCに全面委託
	BSアートへの招待 〔新設〕	BS2 (土)前 8:25～ 8:30 *上記放送以降は随時編成 本放送は月3本で 休止週あり BSHi (土)前 7:25～ 7:30 *上記放送以降は随時編成 本放送は月3本で 休止週あり *BS1と総合は随時	クラシック音楽、バレエ、演劇、美術などアートを扱ったBS波で放送する大人世代に向けた番組に特化して紹介する新しい広報番組。番組では毎回、特集する番組のアートの真髄である名演奏や名演、名作をふんだんに放送するのに加え、専門家のインタビューを交えて紹介。ナレーターは、俳優の藤村俊二、歌手の森高千里、女優の鶴田真由。	NSCに全面委託 (36本)
BSデジタルドーム 〔継続〕	全波 随時 (5秒・30秒他)	11年BS完全デジタル化へ向け、どーもくんが変身してパワーアップ。放送やインターネットでデジタル推進やBS普及のために大活躍。	NSCに全面委託	
その他	どーもくん (NHK メインキャラクター) 〔継続〕	地上・衛星 随時 (30秒・5分他)	NHK全体のキャラクターとして展開中。各種キャンペーンと連動した集中編成やクラッチの制作などを実施。	外プロ制作
	ななみちゃん (BSキャラクター) 〔継続〕	衛星・地上 随時 (30秒他)	衛星波のキャラクターとして定着。今年も「ご当地MAP」など新作が続々。	NSCに全面委託
	BS普及推進スポット 〔継続〕	衛星・地上 随時 (30秒・1分ほか)	「ワールドカップサッカー」や「大リーグキャンペーン」など衛星普及の節目に、スペシャルスポット・ミニ番組などを展開。	NSCに全面委託
	政見経歴放送 〔継続〕	総合・ラジオ第1 随時	衆院選・参院選・知事選の政見経歴放送のようを伝える	本体制作
音声	FM番組トピックス 〔継続〕	FM (月)～(金) 前 9:15～ 9:20 (土)・(日) 前10:57～11:00	当日放送のFM番組の紹介を中心に、先物のおすすめ番組や特集番組等も織り込み、軽快なテンポで伝える。	NSCに全面委託

冊子や高齢者向けのリーフレット、年度末にはBS2波化に向けたチラシなど状況に応じて必要とされる資料を適宜作成した。またMLBやW杯サッカーの放送に合わせてBSデジタルのPR資料も作成したほか、毎月発行している「BSガイド」も広報活動の基本ツールとして電器店や営業活動で活用された。

#### (4) 少数者向けサービス

10年度番組改定の「放送番組時刻表」の作成に合わせて、視覚障害者向けに「点字番組時刻表」「音声CD版 番組時刻表」を作成、全国の盲学校、点字図書館など社会福祉施設に配布した。また音声版時刻表はNHKオンラインからダウンロードできるサービスも実施。そのほか、ハローダイヤ

ルも活用し少数者向けサービスとして取り組んだ。

### 3. インターネットによる広報

経営目標である協会への接触者率80%達成に向けて、ウェブを活用した「未接触者獲得キャンペーン」の09年度に続く第2弾を8月末から1か月間で実施した。前回の結果を踏まえ外部バナー広告の露出回数を大幅に増やしたほか、内容も設定した疑問に番組出演者が動画で答える形式にするなど、より興味を引き付けるものにした結果、サイトへのアクセス数が大幅に伸びた。またターゲット層へのアンケート調査の結果では前回と同様にウェブ活用の有効性が確かめられた。

NHKオンラインに開設している「大河ドラマ」『連続テレビ小説』の公式サイトは内容の充実により1日100万を超えるアクセス数を記録するなど好評であった。予告動画サイト「テレマップムービー」5,011本「コレ見て！MOVIE」119本を年間で掲載、PCと携帯の両方で展開、各期ごとに特集や新番組を紹介するサイトも随時開設した。

経営広報では、デジタル放送を楽しく理解してもらう「デジタル放送キャンペーンサイト」、経営や受信料など放送外情報のポータル「NHKについて」も新規開設した。

10年度末には営業活動に連携し、新社会人・新入生を対象とした「ルーキーキャンペーン」サイトを携帯をメインに開設し、若者向け番組紹介に合わせて家族割など契約促進の側面支援を行った。

表2 特集番組一覧(2010年度)

初回放送日	メディア	タイトル
4月18日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「デジタル化で目指す安心安全な暮らし」
4月～随時	全波	BSデジタルどーもくん「どーもが 変わる」編・「星からの使者」編
5月1日	G	はじまるよ！渋谷DEどーも2010
5月4日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「暮らしに役立つデータ放送」
5月～随時	G	阿藤快の「デジタル放送って何？」
6月13日	G	NHKデジタル放送「いちごとせんべい」
6月13日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「急ごう！集合住宅の地デジ化」
6月～随時	全波	NHK環境(AC共同)キャンペーン「命のかげ」
6月随時	G	BSデジタル「高田純次のデジ樽」
7月17日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「アンテナチェックはお済ですか？」
7月24日	G	NHKデジタル放送「われたせんべい」
7月31日	G	ミニミニ映像の作り方(ビデオカウボーイ)
7月～随時	全波	デジタルキャンペーン「綾小路きみまろ・デジタル小劇場」 ペラダ編・リビング編・すし屋編
8月22日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「どうする？“ビル陰地域”の地デジ化」
8月28日	G	土曜スタジオパーク・サマースペシャル 「土スタパーラーへようこそ」
9月5日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「どう地デジ化？ 賃貸の集合住宅」
10月16日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「地デジ徹底活用法」
10月～随時	全波	BS受信料PR「BS見放題」編
10月～随時	全波	BSデジタルどーもくん「旅はBS」編
10月～随時	全波	プレマップ「スペシャルドラマ坂の上の雲」
11月6日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「知って得して Let's ワンセグ」
11月随時	G	いよいよスタート！ スペシャルドラマ坂の上の雲
11月13日	G	阿部寛が語る スペシャルドラマ坂の上の雲
11月23日	G	スタジオパーク 龍馬伝スペシャル
11月～随時	全波	BS受信料PR「武田双雲」編
11月～随時	全波	BS視聴促進PR「藤岡弘、編・「高畑淳子」編
11月～随時	全波	デジタルテレビ機能編「紅白審査員(ケンドーコバヤシ)編・ 「オンデマンド(ピース)編・「EPG(南海キャンディーズ)編
12月11日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「デジタルテレビをインターネットにつなごう！」
12月18日	G	第8回NHKミニミニ映像大賞 グランプリ決定！
12月31日	G	スタジオパーク 大みそかスペシャル2010
12月31日	G	いよいよ今夜！紅白歌合戦
1月10日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「BSデジタルはこんなに楽しい！」
2月13日	G	デジタルテレビライフがやってきた！ 「でんわ急げ デジサポへ」
3月26日	BS1	デジタルテレビライフがやってきた！ 「パワーアップ！NHK新BS」
3月～随時	BS	新BS直前告知特番(仲間由紀恵)
3月～随時	全波	ガンバレ。ルーキー！キャンペーン2011

# 営業

## 営業の組織

### (1) 営業拠点

受信契約の徹底と受信料の確実な収納を図るため、各地域放送局内の営業部のほかに、大都市圏地域には18の営業センターを置いている。全国合わせて75の営業部と営業センターを営業活動の拠点としている。

各営業拠点では、地域別や業務内容別（地域スタッフ対応、事業所対応、お客様対応など）に業務実施グループを編成し、営業活動を実施している。

### (2) 営業活動単位

#### ①営業職員

地域スタッフの指導や支援活動、ケーブルテレビ・事業所などとの渉外業務や、視聴者からの問い合わせ対応、地域状況の分析を行う。

また、受信契約の契約・収納業務を行う。

#### ②地域スタッフ

委託契約に基づき、受信料の契約・収納業務を行う。

#### ③法人委託

委託契約に基づき、受信料の契約・収納業務を行う。電器店や不動産会社等、契約業務のみを行う場合もある。

## I. 受信契約

### 1. 受信契約者の維持・増加活動

単身世帯等の面接困難世帯の増加等や経済状況の低迷等の影響により、営業活動を取り巻く環境はますます厳しさを増している。

こうした中で、訪問集金廃止後の新たな体制の定着を図り、契約取次業務や未収対策等に一層重点的に取り組んだ。

さらに、携帯端末に登録した情報に基づいた活動や、面接好適時間帯での対策など、地域スタッフの活動力の向上を図り、受信料の公平負担に取り組んだ。

また、衛星放送の普及促進に不可欠なケーブル事業者や電器店等と連携した活動を展開した。

さらに、CASメッセージ機能などを活用した契約活動を展開した。

そのほか、「受信料の窓口」（インターネット営

業センター）や「NHKフリーダイヤル」による受信契約の受付、口座振替事前通知を活用したダイレクトメールによる衛星契約勧奨、BSデジタル機器に同梱される「ファーストステップガイド」への衛星契約書の封入を行った。

また、オートロックマンション対策として、不動産業者との業務委託を進め、新規契約の開発や住所変更の早期取り次ぎに努めた。

04年7月の職員の不祥事以降、受信料の支払拒否・保留者が大幅に増えたが、05年度の第5期からは減少に転じた。10年度の契約総数（有料）は、年間で45.8万件の増加となり、年度末における契約総数は3,975万件（有料無料計）となった。

### 2. 事業所などの受信契約

家庭に設置されたテレビなど受信機の受信契約は、受信機の台数にかかわらず1世帯1契約としているが、会社・官公庁・ホテル・旅館・病院などいわゆる事業所の場合は、テレビの設置場所ごとに受信契約が必要となっている（放送受信規約第2条）。

10年度は、09年度に引き続き、同一敷地内全数契約を条件とした事業所割引や業界団体への業務委託を活用するなど、公平負担の徹底に向けたきめ細かい活動を全国的に展開した。

その結果、年間で8.5万件の受信契約件数の増加となり、年度末の事業所契約件数は243.6万件となった。

### 3. 営業システム（EGGS）

受信料の請求、収納など営業活動の支援は、「EGGSシステム」を活用して行っている。

視聴者との回路の充実を図るため、コールセンターシステムを刷新、設置確認メッセージの有効活用に向けた受信機管理システムの見直しなど、「経営計画」をサポートするためのシステム整備を実施した。また、さらに効果的、効率的な営業活動の展開を目指して、最新技術を導入した新携帯端末の開発に向けた検討を開始した。

インターネットによる自主申出の拡大に向けては、公共料金ワンストップサービスとの連携やインターネット口座振替受付のサービスを展開するなど、取次チャンネルの拡大を図るとともに、QRコードによる携帯電話からのクレジット支払いなど利便性の向上を図っている。

## Ⅱ. 受信料の収納

### 1. 口座振替など間接收納の促進

受信料の収納は、口座振替・継続振込・クレジットカード継続払によって行っている。

近年、単身世帯や共働き世帯の増加、オートロックマンションの普及などによる面接困難世帯の割合が高くなり、営業活動の困難度も増している。

こうした中で、収納の安定化や効率的業務推進のため、これまで口座振替の拡大を進めてきたが、06年6月からは「クレジットカード継続払」の支払いを開始し、10年度末の利用件数は286.9万件となった。

振込用紙発送時や新規の受信契約を取り次ぐときに、口座振替・クレジットカード継続払の利用勧奨を積極的に行っているほか、ダイレクトメールによる勧奨も実施している。

10年度末の口座振替・クレジットカード継続払による受信料支払い件数は2,907万件で、これらの利用割合は77.9%となった。

### 2. 受信料の収納体制

①口座振替は、都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協、ゆうちょ銀行が利用可能となっている。

②クレジットカード継続払は、10年度末時点で20ブランドのカードが利用可能となっている。

③継続振込の取り扱い窓口は、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、農協、コンビニエンス・ストア、郵便局である。

このほか、ケーブルテレビ事業者による受信料「団体一括支払」制度により、収納の効率的な推進に努めた。

### 3. メッセージ機能の活用強化

BSデジタル放送の設置確認を効果的に行い、受信料の公平負担を徹底するため、BSデジタル放送のテレビ画面に、BS受信機の設置についてNHKへの連絡を促す設置確認メッセージを表示している。

BSデジタル放送の視聴開始30日後から、NHKのBSデジタル放送にチャンネルを合わせるたびに、テレビ画面の左下隅に設置確認メッセージが表示される。

画面に表示されたいずれかの方法で、B-CAS（ビーキャスト）カード番号、名前や住所などを連

絡すると、設置確認メッセージはすぐ消える。NHKでは、この情報を基に、契約状況を確認し、衛星契約が済んでいない方には、後ほど契約の依頼を行っている。さらに、受信機設置の連絡後、一定期間を経てもなお衛星契約の届けがない場合に契約案内メッセージを表示する運用を12月から開始した。

NHKではBS設置のご連絡をお願いしています。既に衛星契約をいただいている方にもお手数をお掛けしますがご連絡をお願いします。ご連絡はNHKホームページ・携帯サイト・電話等をお願いします。リモコンの青ボタンを2秒以上押し続けると詳しいご案内を表示します。  
電話の場合は0120-933933

また、BSデジタル受信機にこん包されているB-CASカードのユーザー登録はがきを、受信機購入後速やかに投かんしてもらえば、あらかじめ設置確認メッセージが表示されないようにすることもできる。

#### ※B-CASカード

BSデジタル受信機には、ICチップのついたB-CASカードが必ず添付されている。

著作権を保護するコピー制御の仕組みがあるため、デジタル放送を視聴するためには、このカードを受信機の所定の場所に差し込む必要がある。このカードの機能により、メッセージの表示のほかに、WOWOWなどのスクランブル放送や、高度な双方向サービスといったBSデジタル放送の魅力的なサービスを、十分に楽しむことができるようになっている。

## Ⅲ. 視聴者との回路作り

### 1. 視聴者との結び付き強化

#### (1) 受信料の支払率向上に向けた視聴者対応

公開番組や各種イベント開催時など、視聴者のみなさまと直接ふれあう場において受信料の支払率向上に向け、公共放送・受信料制度への理解促進と的確な視聴者対応を行うことができるよう、リーフレット等の充実に努めた。

#### ①理解促進ツールの拡充

公共放送・受信料制度に対する理解促進については、リーフレット以外にもインターネットホームページを積極的に活用し、支持層の拡大を図った。また、公開番組の収録時において、開演前のあいさつを兼ねた受信料制度の説明や大画面での

理解促進ビデオ上映などを行った。

## ②地域スタッフへの情報提供と研修

地域スタッフが視聴者を訪問する際に、ニーズに応じた番組の案内ができるように、毎週の番組情報を定期的に提供するとともに、新番組の上映会や番組制作担当者による番組説明会を開催した。さらに、視聴者との対応スキル向上、視聴者の立場に立った営業活動のあり方、番組情報などを内容とする研修ビデオを制作した。

## (2) 放送番組などを活用した視聴者対応

全国各地の放送局において、放送番組やイベントを通じて視聴者と積極的な交流を図り、デジタル放送の普及、公共放送の理解促進に努めた。

### ①公開番組・イベントと連動した営業活動

各地の視聴者との交流を図るため、公開番組や各種イベントと連動した営業活動を実施する「エリアターゲット」を全国で展開した。「おかあさんといっしょ あつまれ！土曜日」や「ぐ〜チョコランタン小劇場」などにより、ファミリー層への理解促進にも努めている。また、テレビ番組『街道てくてく旅』や『ドゥ！エアロビック』、ラジオ番組『ここはふるさと旅するラジオ』、地域向け放送などを通じ、地域放送局が主体となって幅広い理解促進活動を実施した。

### ②デジタル放送の普及促進活動の展開

地上・BSデジタル放送に関する情報を番組やホームページで周知するほか、「デジタル体感ランド」などのイベントを通じて地上・BSデジタル放送の一体的な普及促進を図った。

## 2. 視聴者の意向吸収と業務への反映

### (1) 視聴者意向の吸収

職員や地域スタッフによる訪問活動や電話対応など日常の営業活動の中で、視聴者意向の吸収に努めた。

### (2) 視聴者意向の業務への反映

番組に対する視聴者の反響や意見については、番組改定時における番組制作や編成業務の参考資料として活用している。

## 3. 視聴者の信頼確保

一連の不祥事等を理由として受信料の支払拒否・保留を表明した契約者に対しては、協会の改革・再生に向けた取り組み等を説明し、“損なわれた信頼”と“受信料支払拒否”の回復に向け、全職員一丸となって取り組んだ。不祥事を理由とした支払拒否・保留数は10年度末で19.9万件となり、最も多い時期と比べ108.1万件減少した。

## 4. NHKふれあいセンター（受信料関係）

東京・大阪・福岡・仙台の4つのふれあいセンター（営業）で、視聴者からの電話による「放送受信契約の申し出」「受信料関係の問い合わせ」の受付業務を実施した。毎年多くの転居連絡を受ける4月の引越しシーズンには手厚い対応体制を整えるなど、年間の業務量を勘案し、視聴者の「声」に対して迅速・正確・親切な対応を行うよう努めた。一方で、口座振替の利用勧奨や継続振込等の入金依頼など、受信契約者へのアウトバウンド業務も積極的に展開した。

また、東京のふれあいセンター（営業）では、インターネットによる受信契約や住所変更、受信料の支払方法変更などの申し出に対応する「インターネット営業センター」業務、BSデジタル放送の「メッセージ消去」に関するカスタマーセンター業務を行った。